

岐阜県産魚類を用いた研究論文のリスト　－1890年から2020年まで－

1. 著者不明. 1890. やつめうなぎノ産卵. 動物学雑誌, 2:140.
2. 間野静雄・淀 太我. 2018. 岐阜県庄内川水系土岐川における天然遡上アユの確認. 魚類学雑誌, 65:71-74.
3. 間野静雄・淀 太我・石崎大介・吉岡 基. 2014. 長良川におけるアユの由来別の成長特性. 水産増殖, 62:89-97.
4. 赤田仁典・淀 太我. 2006. カワバタモロコ *Hemigrammocypripis rasborella* における外部形態の水域間変異. 魚類学雑誌, 53:175-179.
5. 秋道智彌. 1979. 明治初期・飛騨地方における生産魚類の分布論的研究. 国立民族学博物館研究報告, 4:285-339.
6. Akimichi, T. 1982. Riverine fisheries in nineteenth century Hida. Senri Ethnological Studies, 9: 141-156.
7. 安東伊三次郎. 1900. トゲウオの観察. 動物学雑誌, 12:133-136.
8. 安藤志郎・後藤宮子・後藤 正. 1989. 長良川のアユカケ. 岐阜県博物館調査研究報告, 10: 13-14.
9. Aoki, T., S. Egusa, C. Yada and T. Watanabe. 1972. Studies of drug resistance and R factors in bacteria from pond-cultured salmonids. Japanese Journal of Microbiology, 16: 233-238.
10. Aoki, T., T. Kitao, N. Emura, Y. Mitoma and T. Nomura. 1983. The susceptibility of *Aeromonas salmonicida* strains isolated on cultured and wild salmonids to various chemotherapeutics. Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries, 49: 17-22.
11. Arai, K. 2001. Genetic improvement of aquaculture finfish species by chromosome manipulation techniques in Japan. Aquaculture, 197: 205-228.
12. 荒井 真・川瀬好永・森川 進. 1988. 岐阜県で初めて確認された細菌性腎臓病 (Bacterial kidney Disease; BKD) について. 岐阜県水産試験場研究報告, 33:35-43.
13. 荒井 真・熊崎隆夫. 1985. マス類のウィルス病に関する研究-VIII ニジマスの IHN 耐病系の選抜について. 岐阜県水産試験場研究報告, 30:29-32.
14. 荒井 真・森川 進. 1975. IPN に関する研究-II アマゴにおける IPN とせつそう病の混合感染症例について. 岐阜県水産試験場研究報告, 20:61-65.
15. 荒井 真・森川 進. 1984. スルファジメトキシナトリウムの経口投薬後におけるニジマス魚体内への残留について. 岐阜県水産試験場研究報告, 29:55-57.
16. 荒井 真・森川 進. 1986. ニジマスの非細菌性鰓病 (仮称) についてパントテン酸カルシウムの添加効果と用水の違いによる比較飼育について. 岐阜県水産試験場研究報告, 31:21-25.
17. 荒井 真・森川 進・田代文男. 1984. 塩酸オキシテトラサイクリンの薬浴後におけるニジマス魚体内の残留について. 岐阜県水産試験場研究報告, 29:59-61.
18. 荒井 真・田口錠次. 1978. アマゴ卵・ニジマス卵に対するポピドンヨード剤の毒性について.

岐阜県水産試験場研究報告, 23:57-62.

19. 荒井 真・田代文男. 1975. マス類の水生菌症に関する研究-II 各種薬剤の水生菌防除効果について(1). 岐阜県水産試験場研究報告, 20:131-135.
20. 荒井 真・田代文男. 1976. マス類のウイルス病に関する研究-IVIPN の耐病形質の検討. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:81-85.
21. 荒井 真・田代文男. 1976. マス類のウイルス病に関する研究-IIIHN の岐阜県内の発病状況について. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:139-144.
22. 荒井 真・田代文男. 1976. マス類の水生菌症に関する研究-各種薬剤の水生菌防除効果について(2). 岐阜県水産試験場研究報告, 21:145-148.
23. 荒井 真・田代文男. 1977. マス類のウイルス病に関する研究-V 低水温による IHN の発病抑制の試み. 岐阜県水産試験場研究報告, 22:131-135.
24. 荒井 真・田代文男. 1981. マス類のウイルス病に関する研究-VII ニジマスにおける IHN 不活性化ウイルス接種による経卵移行免疫. 岐阜県水産試験場研究報告, 26:47-52.
25. 荒井 真・都竹仁一・森川 進. 1980. マス類の水生菌症に関する研究-酢酸 dl- α -トコフェロールによるニジマス親魚の採卵後の水カビ病予防試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 25:27-30.
26. Arai, T., A. Goto and N. Miyazaki. 2003. Migratory history of the threespine stickleback *Gasterosteus aculeatus*. Ichthyological Research, 50: 9-14.
27. 浅野竣一. 1977. 木曽川に生息するイタセンパラ保護について. 淡水魚, 3:55-58.
28. 浅野竣一. 1978. 木曽川におけるイタセンパラの生態調査と保護について. 生物教育, 17:1-18.
29. 浅野竣一. 1978. 地域の自然を生かした野外学習の実践-天然記念物イタセンパラの保護を中心とした教材開発. 採集と飼育, 40:533-538.
30. 浅野竣一. 1984. 濃尾平野のイタセンパラ. 淡水魚, 10:85-87.
31. Atsumi, K. and I. Koizumi. 2017. Web image search revealed large-scale variations in breeding season and nuptial coloration in a mutually ornamented fish, *Tribolodon hakonensis*. Ecological Research, 32: 567-578.
32. 番 雅義・古屋康則. 2020. 二枚貝に卵寄託するカワヒガイの生殖腺発達過程と産卵管の形態. 魚類学雑誌, 67:179-193.
33. Cassidy, L. M., M. Ravinet, S. Mori and J. Kitano. 2013. Are Japanese freshwater populations of threespine stickleback derived from the Pacific Ocean lineage? Evolutionary Ecology Research, 15: 295-311.
34. 千葉健治. 1970. 流水養鯉池における環境とコイの生長. 日本水産学会誌, 36:297-303.
35. 藤井亮吏. 2013. 模擬的な堰堤からの落下が魚類に与える物理的影響. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 58:8-13.
36. 藤井亮吏. 2017. ナマズ精子の希釈液による運動性の比較. 岐阜県水産研究所研究報告,

62:27-33.

37. 藤井亮吏・下村雄志・田原大輔・棗田孝晴・岸 大弼. 2018. 飼育環境におけるカジカ大卵型・中卵型・小卵型の卵および仔稚魚の生残状況. 岐阜県水産研究所研究報告, 63:7-16.
38. 藤井亮吏・田口錠次. 2012. アジメドジョウの人工産卵床と産卵水温. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 57:15-21.
39. 藤岡康弘. 1988. ビワマスとアマゴの成長ならびにパー・スモルト変態に伴う外部形態の変化. 日本水産学会誌, 54:77-86.
40. Fujioka, Y. and S. Fushiki. 1989. Seasonal changes in hypoosmoregulatory ability of biwa salmon *Oncorhynchus rhodurus* and amago salmon *O. rhodurus*. Nippon Suisan Gakkaishi, 55: 1855-1892.
41. Fujioka, Y., S. Fushiki, M. Tagawa, T. Ogasawara and T. Hirano. 1990. Seasonal changes in plasma thyroxine levels in biwa and amago salmon reared in the pond. Nippon Suisan Gakkaishi, 56: 249-254.
42. Fujioka, Y., T. Katoh, S. Fushiki and H. Nakagawa. 1991. Changes in fatty acid composition associated with body silvering in biwa salmon *Oncorhynchus rhodurus* and amago salmon *O. rhodurus*. Nippon Suisan Gakkaishi, 57: 2313-2320.
43. 福井謙太郎・藤井亮吏・田原大輔・早川洋一・古屋康則. 2007. 飼育下におけるカジカ(小卵型)の生殖腺組織および血中性ホルモン濃度の周年変化. 魚類学雑誌, 54:173-186.
44. 舟橋紀男・宮崎照雄・窪田三朗. 1973. ニジマス稚魚にみられた微孢子虫病. 魚病研究, 8: 64-67.
45. 船坂鐔三・小瀬洋喜・佐藤孝彦. 1975. 長良川の異臭魚に関する研究(第 3 報)異臭魚原因物質としての芳香族炭化水素類. 衛生化学, 21:93-100.
46. 船坂鐔三・小瀬洋喜・佐藤孝彦. 1975. 長良川の異臭魚に関する研究(第 4 報)異臭魚原因物質としてのフェノール. 衛生化学, 21:101-105.
47. 船坂鐔三・小瀬洋喜・佐藤孝彦. 1976. 長良川の異臭魚に関する研究(第 7 報)異臭原因物質の Median Tolerance Limit 試験. 衛生化学, 22:20-23.
48. 船坂鐔三・小瀬洋喜・佐藤孝彦. 1978. 長良川の異臭魚に関する研究(第 9 報)異臭魚原因物質の確認. 衛生化学, 24:155-157.
49. 船坂鐔三・田中一夫・板垣又丕・小瀬洋喜・佐藤孝彦. 1975. 長良川の異臭魚に関する研究(第 5 報)高分解能ガスクロマトグラフィー質量分析計による異臭原因物質の同定. 衛生化学, 21:341-347.
50. 船坂鐔三・田中一夫・板垣又丕・小瀬洋喜・佐藤孝彦. 1976. 長良川の異臭魚に関する研究(第 6 報)多重イオン検出器による異臭物質の Mass Fragmentography. 衛生化学, 22:1-5.
51. 船坂鐔三・田中一夫・板垣又丕・小瀬洋喜・佐藤孝彦. 1978. 長良川の異臭魚に関する研究(第 8 報)高分解能ガスクロマトグラフィー質量分析計による魚体中テトラリンの同定および定量. 衛生化学, 24:139-142.

52. 船坂義郎・石井重男・小木曾卓郎. 1964. アユの種苗生産に関する研究人工生産アユとびわ湖産小アユの光処理による成熟促進比較試験. 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:54-62.
53. 船坂義郎・石井重男・小木曾卓郎. 1964. アユの種苗生産に関する研究(光処理による成熟抑制試験). 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:63-68.
54. 船坂義郎・石井重男・小木曾卓郎. 1964. アユの種苗生産に関する研究海産稚アユと湖産小アユの成熟促進比較試験. 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:69-78.
55. 後藤勝秋・小木曾卓郎・細江重男. 1974. アユの親魚飼育に関する研究-Iクロレラ飼料によるアユに飼育について(1). 岐阜県水産試験場研究報告, 19:47-52.
56. 後藤勝秋・小木曾卓郎・細江重男. 1974. アユの親魚飼育に関する研究-II 養殖アユの卵質改善について(1). 岐阜県水産試験場研究報告, 19:63-60.
57. 後藤功一. 1994. アマゴの育種に関する研究-I 河川残留型及び降海型アマゴの相分化における系群特性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 39:21-28.
58. 後藤功一. 1995. アマゴの育種に関する研究-II 河川残留型及び降海型アマゴの相分化における系統特性について-2. 岐阜県水産試験場研究報告, 40:11-18.
59. 後藤功一. 1996. アマゴの育種に関する研究-IV 同一起源の親魚群より作出したパー系(河川残留型)及びスモルト系(降海型)アマゴの遺伝的特性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 41:25-30.
60. 後藤功一. 1997. アマゴの育種に関する研究-V パー系(河川残留型)作出のための各産地系統の特性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 42:11-16.
61. 後藤功一・熊崎隆夫. 1995. アマゴの育種に関する研究-III 光周期条件がアマゴの相分化に及ぼす影響について. 岐阜県水産試験場研究報告, 40:43-47.
62. 後藤功一・熊崎隆夫. 1995. ニジマスの育種に関する研究-II 晩期産卵系ニジマスの選抜効果と遺伝的変異性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 40:49-51.
63. 後藤功一・武藤義範・タンマウオンマナスイカン・中野浩平. 2016. 致死条件の違いがアユの鮮度関連指標に及ぼす影響. 岐阜県水産研究所研究報告, 61:11-15.
64. 後藤宮子. 1981. カワヨシノボリをめぐる長良川中流のハゼ科魚類. 淡水魚, 7:26-30.
65. 後藤宮子. 1988. 自然河川長良川の魚の移り変わり-登り落漁法を通じて-. 淡水魚保護, 1:15-18.
66. 後藤宮子. 2000. 今川のアカザの絶滅危惧度. ボテジャコ, 4:19-22.
67. 後藤宮子・後藤 正. 1971. 長良川の魚相, 現状と過去との比較:水質汚染との関係. 日本生態学会誌, 21:254-264.
68. 原 徹・浅野篤志・斉藤 薫・一柳哲也・土川博之. 1997. 長良川におけるアユ仔魚の降下状況-II. 岐阜県水産試験場研究報告, 42:23-26.
69. 原 徹・荻谷哲治. 2010. 馬瀬川におけるアユ漁不振漁場の環境要因. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 55:23-29.

70. 原 徹・桑田知宣・荻谷哲治. 2008. 冷水病菌を保菌していない小型アユ種苗の放流効果. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 53:1-5.
71. 原 徹・桑田知宣・斉藤 薫. 2007. 河川における冷水病菌の動態冷水病菌を保菌していないアユ種苗の放流事例. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 52:1-4.
72. 原 徹・桑田知宣・斉藤 薫. 2007. アユの河川内での冷水病感受性および放流効果の系統差. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 52:5-9.
73. 原 徹・松田宏典. 2005. 漁業がアユ資源に与える影響の解明長良川のヤナで採捕されたアユの種類. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 50:17-24.
74. 原 徹・松田宏典・荻谷哲治. 2004. アユ放流用優良種苗の検索および放流技術開発研究馬瀬川におけるアユの標識放流試験-1. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 49:11-14.
75. 原 徹・松田宏典・荻谷哲治. 2004. アユ放流用優良種苗の検索および放流技術開発研究馬瀬川におけるアユの標識放流試験-2. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 49:15-17.
76. 原 徹・松田宏典・荻谷哲治. 2004. アユ放流用優良種苗の検索および放流技術開発研究馬瀬川におけるアユの標識放流試験-3. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 49:19-22.
77. 原 徹・松田宏典・荻谷哲治. 2005. 琵琶湖産系人工産アユの特性研究大洞川におけるアユの標識放流試験. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 50:25-29.
78. 原 徹・森 美津雄・後藤功一. 1998. 阿木川ダムにおける陸封アユの調査-II 湖内で再生産している稚アユの種類について. 岐阜県水産試験場研究報告, 43:25-27.
79. 原 徹・森 美津雄・都竹仁一. 2002. 人工湖の水産利用に関する研究伊自良湖におけるワカサギの増殖研究. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 47:5-11.
80. 原 徹・武藤義範・岡崎 稔・一柳哲也・浅野篤志・土川博之. 1998. 長良川におけるアユ仔魚の降下状況-III. 岐阜県水産試験場研究報告, 43:15-17.
81. 原 徹・斉藤 薫. 2006. 漁業がアユ資源に与える影響の解明-II アユ種苗の由来判別とその利用. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 51:11-16.
82. 原 徹・斉藤 薫・一柳哲也. 1997. アユ資源の増殖に関する研究-III 長良川に天然遡上するアユの耳石調査. 岐阜県水産試験場研究報告, 42:1-6.
83. 原 徹・斉藤 薫・松田宏典. 2000. アユ資源の増殖に関する研究-VI 付知川におけるアユの漁獲状況. 岐阜県水産試験場研究報告, 45:1-6.
84. 原 徹・斉藤 薫・武藤義範. 1996. アユ資源の増殖に関する研究-長良川に天然遡上するアユの種類について. 岐阜県水産試験場研究報告, 41:1-5.
85. 原 徹・斉藤 薫・武藤義範. 1996. アユ資源の増殖に関する研究-II 長良川における産卵親魚の種類について. 岐阜県水産試験場研究報告, 41:7-11.
86. 原田賢之・上松和夫・立川 互・茂木 博. 1974. アマゴの増殖に関する研究-XIX アマゴの体表の朱赤点について(2)体表色素の分析. 岐阜県水産試験場研究報告, 19:27-32.
87. Hara, M., T. Sakamoto, M. Sekino, K. Ohara, H. Matsuda, M. Kobayashi and N. Taniguchi. 2006. Characterization of novel microsatellite DNA markers in ayu *Plecoglossus altivelis*.

- Fisheries Science, 72: 208-210.
88. 畑井喜司雄. 1980. 水カビ病について. 魚病研究, 14:199-206.
 89. 畑井喜司雄・江草周三. 1977. サケ科魚類稚魚の内臓真菌症に関する研究—II. 魚病研究, 11:187-193.
 90. 畑井喜司雄・森川 進・江草周三. 1976. 魚類におけるクロラムフェニコールの吸収および排泄—IV. 魚病研究, 11:77-82.
 91. 八田三郎. 1897. トゲウヲの巢及び卵の其保護. 動物学雑誌, 9:135-137.
 92. 八田三郎. 1900. 日本に於けるヤツメの種類及び配布. 動物学雑誌, 12:157-174.
 93. 八田三郎. 1911. 本邦産八目鰻の変異と二形とに就て. 動物学雑誌, 23:46-48.
 94. Hibino, Y. and R. Tabata. 2018. Description of a new catfish, *Silurus tomodai* (Siluriformes: Siluridae) from central Japan. Zootaxa, 4459: 507-524.
 95. 平尾秀一・菊地 嶺・船坂義郎・本荘鉄夫. 1962. 養殖ニジマスに香味をつける試み. 日本水産学会誌, 28:1173-1178.
 96. 平尾秀一・菊地 嶺・酒井寿恵・荒井君枝・本荘鉄夫. 1962. ラッテおよびニジマスに対する β アポカロテナールの投与成績. 日本水産学会誌, 28:709-714.
 97. 平尾秀一・菊地 嶺・田口脩子. 1963. 魚類のカロチノイド色素に関する研究—I. 日本水産学会誌, 29:371-381.
 98. 広 正義. 1965. 中部地方におけるダム湖とそれに連なる川の陸水学的研究(第 1 報):木曽川水系の丸山ダム湖とそれに連なる川の生物. 名古屋女子大学紀要, 11:68-75.
 99. 広 正義. 1976. 揖斐川における魚類の種類と分布. 名古屋女子大学紀要, 22:161-168.
 100. 広 正義. 1977. 木曽川の魚類とその分布. 名古屋女子大学紀要, 23:167-178.
 101. Hitotsumachi, S., M. Sasaki and Y. Ojima. 1969. A comparative karyotype study in several species of Japanese loaches (Pisces, Cobitidae). The Japanese Journal of Genetics, 44: 157-161.
 102. 本荘鉄夫. 1964. 養鱒飼料試験(養鱒技術研修会連絡試験)(蛋白質の適正給与量について). 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:1-9.
 103. 本荘鉄夫. 1964. 養鱒飼料試験(ニジマスに対するビタミン混合の最小給与量について). 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:26-31.
 104. 本荘鉄夫. 1964. 養鱒飼料試験(北洋産白身魚粉を主蛋白源としてニジマスの親魚を飼育した結果について). 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:32-34.
 105. 本荘鉄夫. 1965. 養殖ニジマス飼料へのビタミン C の添加について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:39-42.
 106. 本荘鉄夫. 1965. ニジマス養殖におけるビタミン E の効果性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:43-49.
 107. 本荘鉄夫. 1965. ニジマス餌料にスケソー肝油の多量連続投与. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:50-55.

108. 本荘鉄夫. 1965. 有機水銀剤のニジマスに対する毒性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:155.
109. 本荘鉄夫. 1968. コイに対する油脂の給与効果, 並びに酸化油の影響と抗酸化剤の添加効果について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 41 年度:46-48.
110. 本荘鉄夫. 1974. 長良川の遡河マス中に発見した標識アマゴ. 岐阜県水産試験場研究報告, 19:63-65.
111. 本荘鉄夫. 1977. アマゴの増養殖に関する基礎的研究. 岐阜県水産試験場研究報告, 22:1-103.
112. 本荘鉄夫・橋本 進・立川 互. 1964. 養鱒飼料試験(水産庁指定試験)(油脂の栄養効果性について(1)). 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:10-17.
113. 本荘鉄夫・熊沢 恒・大崎雅勝・米村 健・柏 元三. 1967. ニジマスに対する酸化魚油の影響とエトキシキン添加効果. 油化学, 16:135-136.
114. 本荘鉄夫・村瀬恒男・岡崎 稔. 1978. 在来マス類の放流に関する研究-XII 揖斐川における銀毛型アマゴ放流について. 岐阜県水産試験場研究報告, 23:1-5.
115. 本荘鉄夫・岡崎 稔・森 茂寿. 1975. 在来マスの放流に関する研究-VIII アマゴの降海と遡河について. 岐阜県水産試験場研究報告, 20:1-12.
116. 本荘鉄夫・岡崎 稔・森 茂寿. 1976. 在来マス類の放流に関する研究-IX アマゴの降海と遡河について(2). 岐阜県水産試験場研究報告, 21:1-8.
117. 本荘鉄夫・岡崎 稔・立川 互. 1973. 従来マス類の放流に関する研究-VII 長良川下流部におけるアマゴとニジマスの放流について(予報). 岐阜県水産試験場研究報告, 18:31-37.
118. 本荘鉄夫・立川 互. 1964. 養鱒飼料試験(水産庁指定試験)(油脂の栄養効果性について). 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:18-25.
119. 本荘鉄夫・立川 互. 1965. 養殖ニジマス飼料への添加ビタミン類について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:29-38.
120. 本荘鉄夫・田口錠次. 1974. アジメドジョウの増殖に関する研究-I 採卵・ふ化と仔稚魚の飼育について. 岐阜県水産試験場研究報告, 19:1-7.
121. 本荘鉄夫・田口錠次. 1974. びん型ふ化器について. 岐阜県水産試験場研究報告, 19:73-76.
122. 本荘鉄夫・宇野康司. 1967. コイ養成餌料としての油脂類の添加について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 40 年度:42-50.
123. 本荘鉄夫・宇野康司・岡崎 稔. 1965. コイ養成飼料におけるたん白質と炭水化物の交換及び油脂の添加について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:90-99.
124. 堀井正雄. 1952. 成育環境を異にする同種諸アユの鱗の形態. 魚類学雑誌, 2:60-68.
125. 堀川まりな・向井貴彦. 2007. 濃尾平野におけるゼゼラのミトコンドリア DNA 二型の分布. 日本生物地理学会会報, 62:29-34.
126. 堀川まりな・中島 淳・向井貴彦. 2007. 九州北部のゼゼラにおける在来および非在来ミトコン

- ドリア DNA ハプロタイプの分布. 魚類学雑誌, 54:149-159.
127. 細江重男・荒井 真・田代文男・渡部邦夫. 1976. マス類の水生菌症に関する研究-飼料およびビタミン C 添加による予防効果について. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:149-153.
128. 細江重男・石川幸児・森 茂寿. 1973. オイカワの増殖に関する研究-III オイカワの採卵について. 岐阜県水産試験場研究報告, 18:7-13.
129. 細江重男・森川 進・三上恒正. 1976. ニジマスにトリクロルフォンを経口投与した場合の毒性・吸収・残留性とチョウの駆除効果について. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:125-129.
130. 細江重男・小木曾卓郎. 1972. オイカワの増殖に関する研究-II オイカワの採卵, ふ化及び仔稚魚の飼育について(2). 岐阜県水産試験場研究報告, 17:19-30.
131. 細江重男・田口錠次. 1978. マス類の水生菌症に関する研究-V マラカイトグリーンの反復薬浴の水生菌予防効果とアマゴ親魚に及ぼす影響について. 岐阜県水産試験場研究報告, 23:49-56.
132. 細江重男・田代文男. 1979. マス類の白内障に関する研究-II アマゴの生長におよぼす白内障の影響について. 岐阜県水産試験場研究報告, 24:51-54.
133. 細江重男・田代文男・山本彦一・高橋 誠. 1981. マス類の白内障に関する研究-III 市販配合飼料の使用名柄と発生との関連について. 岐阜県水産試験場研究報告, 26:63-70.
134. 細江達三・古屋康則. 2008. 岐阜県におけるホトケドジョウの生息地環境. 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 32:19-28.
135. 細谷和海. 1982. 日本産ヒガイ属魚類の分布と変異. 淡水魚, 8:10-18.
136. 古田健也・古屋康則. 2006. 長良川支流, 伊自良川水系における魚類の分布. 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 30:9-19.
137. 古田健也・向井貴彦・古屋康則. 2008. 岐阜県における 3 倍体ギンブナの分布とクローン組成. 魚類学雑誌, 55:9-16.
138. 一柳哲也・熊崎 博・森 茂寿・苅谷哲治. 1997. 根尾川におけるオヤニラミの生息調査. 岐阜県水産試験場研究報告, 42:17-22.
139. 一柳哲也・桑田知宣. 2001. アマゴの育種に関する研究-VII 早熟雄が相分化に及ぼす影響について-2. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 46:1-7.
140. 一柳哲也・松田宏典・桑田知宣. 2000. アマゴの育種に関する研究-VI 早熟雄が相分化に及ぼす影響について. 岐阜県水産試験場研究報告, 45:7-12.
141. 家坂剛正. 1965. ニジマスの潰よう病について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:114-120.
142. 家坂剛正. 1965. つまようじ工場廃水による生物飼育試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:156-157.
143. 家坂剛正. 1968. ニジマス春稚魚の疾病について III 病理学的検査. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 41 年度:61-66.
144. 家坂剛正. 1969. ニジマス稚魚の腓臓壊死症について II 組織培養. 岐阜県水産試験場研究

- 報告, 昭和 42 年度:69-71.
145. 家坂剛正. 1969. ニジマス稚魚の鰓病について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 42 年度:72-77.
146. 家坂剛正. 1970. えら病に関する研究-II ニジマス稚魚に対するパントテン酸投与について. 岐阜県水産試験場研究報告, 15:89-90.
147. 家坂剛正. 1971. ニジマスのすい臓壊死症に関する研究-VIII 経口ワクチンについて. 岐阜県水産試験場研究報告, 16:71-72.
148. 家坂剛正. 1971. ニジマスの黒化症について(2). 岐阜県水産試験場研究報告, 16:83-84.
149. 家坂剛正・本荘鉄夫. 1967. ニジマス親魚餌料試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 40 年度:37-431.
150. 家坂剛正・小木曾卓郎・岡崎 稔. 1970. ニジマスの黒化症(仮称)について. 岐阜県水産試験場研究報告, 15:98-101.
151. 家坂剛正・岡崎 稔. 1970. ニジマスのすい臓壊死症に関する研究-VII 殺菌灯による予防効果並びに病原材料の接種による感染性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 15:86-88.
152. 家坂剛正・岡崎 稔. 1970. せつそう病に関する研究-I アマゴに対するワクチンの投与について. 岐阜県水産試験場研究報告, 15:94-97.
153. 五十嵐 清. 1965. ハリヨ *Gasterosteus aculeatus microcephalus* LINNAEUS の稜鱗の発達について. 日本水産学会誌, 31:33-40.
154. Iguchi, K. and F. Ito. 1994. Occurrence of cross-mating in ayu: amphidromous×land-locked forms, and diploid×triploid. Fisheries Science, 60: 653-655.
155. Iguchi, K., F. Ito, K. Ikuta and M. Yamaguchi. 1991. Sexual dimorphism in the anal fin of ayu *Plecoglossus altivelis*. Nippon Suisan Gakkaishi, 57: 1501-1505.
156. 井原彩笑・石崎大介・向井貴彦. 2020. ミトコンドリア DNA の系統判別による岐阜県の河川・ダム湖への琵琶湖産ウグイの侵入状況. 魚類学雑誌, 67:159-170.
157. 池戸 利・立川 互・都竹仁一. 1981. ニジマスの育種に関する研究-I 産卵時期の異なった系統の選抜. 岐阜県水産試験場研究報告, 26:7-10.
158. 池谷幸樹・佐川志朗・大原健一. 2012. イタセンパラの野生復帰を見据えた生息域外保全への取り組み. 野生復帰, 2:121-128.
159. Ikeya, K. and M. Kume. 2011. Seasonal feeding rhythm associated with fasting period of *Pangasianodon gigas*: long-term monitoring in an aquarium. Zoological Science, 28: 545-549.
160. 今井萌美・須山知香・三宅 崇・古屋康則. 2014. 小学校理科におけるミナメダカ *Oryzias latipes*の餌生物の調査方法-摂餌日周期とストマックポンプ法で採取される餌生物の偏りについて-. 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 38:31-36.
161. 今井萌美・須山知香・三宅 崇・古屋康則. 2017. 野生のミナメダカ *Oryzias latipes* の摂餌生態. 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 41:71-84.
162. 石井重男・船坂義郎・小木曾卓郎. 1965. アユ稚魚の飼育について. 岐阜県水産試験場研

- 究報告, 昭和 38,39 年度:1-8.
163. 石井重男・船坂義郎・小木曾卓郎. 1965. アユ人工フ化仔魚の飼育について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:9-28.
164. 石井重男・船坂義郎・小木曾卓郎. 1967. アユ仔魚の飼育について試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 40 年度:1-10.
165. 石井重男・船坂義郎・小木曾卓郎. 1968. アユ稚魚の飼育試験 (I). 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 41 年度:1-3.
166. 石井重男・船坂義郎・小木曾卓郎. 1968. アユ稚魚の飼育試験 (II). 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 41 年度:4-6.
167. 石井重男・森 茂寿. 1970. アユ種苗生産に関する研究アユ仔魚の飼育について (2). 岐阜県水産試験場研究報告, 15:8-20.
168. 石井重男・森 茂寿. 1972. アユの種苗生産に関する研究アユ仔魚の飼育について (3). 岐阜県水産試験場研究報告, 17:1-6.
169. 石井重男・小木曾卓郎. 1964. 酸素密閉によるアユ活魚持続試験. 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:79-80.
170. 石崎大介. 2015. 聞き取り調査による岐阜県各務原市新境川の昭和初期の魚類相. ボテジャコ, 19:3-12.
171. Ishizaki, D., T. Mukai, T. Kikko and T. Yoda. 2016. Contrasting life history patterns of the goby *Rhinogobius similis* in central Japan indicated by otolith Sr: Ca ratios. Ichthyological Research, 63: 288-293.
172. 石崎大介・谷口義則・淀 太我. 2012. 岐阜県神通川水系小鳥川におけるブラウントラウトの定着. 魚類学雑誌, 59:49-54.
173. 伊藤 玄. 2018. 岐阜県郡上鬼谷川上流域における聞き取り調査に基づく 1940 年代の魚類相. ボテジャコ, 22:63-73.
174. 伊藤 玄・北西 滋・古屋康則・向井貴彦. 2019. 岐阜県神通川水系小鳥川から確認されたカジカ小卵型. 日本生物地理学会会報, 74:13-17.
175. 伊藤 玄・古屋康則・堀池徳祐・向井貴彦. 2020. トウカイコガタスジシマドジョウの遺伝的集団構造. 魚類学雑誌, 67:41-50.
176. Ito, G., Y. Koya, S. Kitanishi, T. Horiike and T. Mukai. 2019. Genetic population structure of the eight-barbel loach *Lefua echigonia* in the Ise Bay region, a single paleo-river basin in central Honshu, Japan. Ichthyological Research, 66: 411-416.
177. 伊藤 玄・草留大岳・日比野敦稀・平野史也・中西陽人・島部日向子・長屋美希・古屋康則. 2020. 揖斐川水系牧田川支流今須川の魚類相. 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 44:33-42.
178. 伊藤 玄・松本佳大・近藤湧生・安藤志郎. 2019. 美濃加茂市民ミュージアムに収蔵された魚類液浸標本:1989-2018 年. 美濃加茂市民ミュージアム紀要, 18:24-31.

179. 伊藤 玄・田丸理恵・草留大岳・長屋美希・古屋康則. 2020. 小・中学生を対象とした水生生物の同定をサポートする「生き物シート」の有効性の検討. 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 44:23-31.
180. Jang-Liaw, N. H., K. Tominaga, C. Zhang, Y. Zhao, J. Nakajima, N. Onikura and K. Watanabe. 2019. Phylogeography of the Chinese false gudgeon, *Abbottina rivularis*, in East Asia, with special reference to the origin and artificial disturbance of Japanese populations. Ichthyological Research, 66: 460-478.
181. Kagawa, H., G. Young, S. Adachi and Y. Nagahama. 1982. Estradiol-17 β production in amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*) ovarian follicles: Role of the thecal and granulosa cells. General and Comparative Endocrinology, 47: 440-448.
182. Kagawa, H., G. Young and Y. Nagahama. 1982. Estradiol-17 β production in isolated amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*) ovarian follicles and its stimulation by gonadotropins. General and Comparative Endocrinology, 47: 361-365.
183. Kagawa, H., G. Young and Y. Nagahama. 1983. Relationship between seasonal plasma estradiol-17 β and testosterone levels and in vitro production by ovarian follicles of amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*). Biology of Reproduction, 29: 301-309.
184. 景山哲史. 2008. アユ卵の水カビ病対策研究. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 53:13-15.
185. 景山哲史・中居 裕. 2007. ポビドンヨード製剤を用いたアユ卵消毒法の検討. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 52:19-21.
186. 景山哲史・大原健一・桑田知宣. 2009. 冷水病罹病アユの脾臓重量の増加. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 54:11-13.
187. Kakioka, R., T. Kokita, R. Tabata, S. Mori and K. Watanabe. 2013. The origins of limnetic forms and cryptic divergence in *Gnathopogon* fishes (Cyprinidae) in Japan. Environmental Biology of Fishes, 96: 631-644.
188. Kakioka, R., S. Mori, T. Kokita, T. K. Hosoki, A. J. Nagano, A. Ishikawa, M. Kume, A. Toyoda and J. Kitano. 2020. Multiple waves of freshwater colonization of the three-spined stickleback in the Japanese Archipelago. BMC Evolutionary Biology, 20: 143.
189. Kanamori, K., S. Adachi and Y. Nagahama. 1988. Developmental changes in steroidogenic responses of ovarian follicles of amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*) to chum salmon gonadotropin during oogenesis. General and Comparative Endocrinology, 72: 13-24.
190. Kanamori, K., H. Kagawa and Y. Nagahama. 1987. Gonadotropin receptors in the postovulatory ovary of amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*). General and Comparative Endocrinology, 66: 210-217.
191. Kanamori, K. and Y. Nagahama. 1988. Developmental changes in the properties of gonadotropin receptors in the ovarian follicles of amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*) during oogenesis. General and Comparative Endocrinology, 72: 25-38.

192. Kanamori, K. and Y. Nagahama. 1988. Involvement of 3', 5'-cyclic adenosine monophosphate in the control of follicular steroidogenesis of amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*). *General and Comparative Endocrinology*, 72: 39-53.
193. 金古弘之・千藤克彦. 2008. 『美濃飛騨両国諸川棲息魚介図附魚類取調書』に見る明治期の岐阜県内の水生生物相. 岐阜県博物館調査研究報告, 29:9-44.
194. Kano, Y. 2000. Age and growth of the ajime-loach, *Niwaella delicata*, in the Yura River, Kyoto, Japan. *Ichthyological Research*, 47: 183-186.
195. 荻谷哲治・桑田知宣・景山哲史. 2012. 冷水病に強い人工産アユ種苗の開発選抜履歴が異なる4種類の系統の冷水病耐病性の違い. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 57:29-32.
196. 荻谷哲治・武藤義範・桑田知宣. 2014. 冷水病に強い人工産アユ種苗の開発異なる冷水病菌株の感染に対する2種類の耐病種苗の耐性の比較. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 59:13-18.
197. 春日洋二・菱田美由紀・棚橋宣康・荒井 真. 1992. 養殖ニジマスにおけるマラカイトグリーン の消長について. *食品衛生学雑誌*, 33:539-542.
198. 春日洋二・大塚公人・杉谷 哲・山田不二造. 1981. 高速液体クロマトグラフィーによる魚肉中ナリジクス酸の定量法. *食品衛生学雑誌*, 22:479-483.
199. 春日洋二・杉谷 哲・荒井 真・森川 進. 1987. 養殖ニジマスにおけるナリジクス酸及びその代謝物の組織内濃度について. *食品衛生学雑誌*, 28:267-272.
200. 春日洋二・杉谷 哲・山田不二造・荒井 真・森川 進. 1984. 養殖ニジマス及びアユにおけるオキシリン酸の組織内残留について. *食品衛生学雑誌*, 25:512-516.
201. 春日洋二・棚橋宣康・荒井 真・森川 進. 1990. ナリジクス酸のニジマスにおける残留性及び in vitro における淡水魚肝ミクロソーム酸化について. *食品衛生学雑誌*, 31:166-170.
202. 片野 修・佐久間 徹・岩崎 順・喜多 明・尾崎真澄・坂本 浩・山崎裕治・阿部夏丸・新見克也・上垣雅史. 2010. 日本におけるチャネルキャットフィッシュの現状. *保全生態学研究*, 15: 147-152.
203. Katano, O. 2007. Effects of experimental duration and density of Japanese dace *Tribolodon hakonensis* on the strength of trophic cascades on benthic algae. *Oecologia*, 154: 195-205.
204. Katano, O., T. Nakamura and S. Abe. 2008. Indirect effects of the algivorous fish *Plecoglossus altivelis altivelis* on the growth of two insectivorous benthic fish. *Freshwater Biology*, 53: 1345-1358.
205. 加藤文男. 1992. 長良川・揖斐川水系のイワナの形態と生態に関する知見. *水産増殖*, 40: 145-152.
206. 加藤文男. 1978. 降海アマゴの鱗相について. *魚類学雑誌*, 25:51-57.
207. 加藤文男. 1982. 長良川中流域に降下残留するアマゴについて. *淡水魚増刊・ヤマメ・アマゴ 特集*, :104-111.
208. 加島隆洋・都竹仁一・桑田知宣. 2001. 全雌異質三倍体ニジマスの一般成分及び遊離アミノ

- 酸組成とその周年変化. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 46:23-26.
209. Kawamura, K., T. Ueda, K. Aoki and K. Hosoya. 1999. Spermatozoa in triploids of the rosy bitterling *Rhodeus ocellatus ocellatus*. Journal of Fish Biology, 55: 420-432.
210. Kawamura, K., T. Ueda, R. Arai, Y. Nagata, K. Saitoh, H. Ohtaka and Y. Kanoh. 2001. Genetic introgression by the rose bitterling, *Rhodeus ocellatus ocellatus*, into the Japanese rose bitterling, *R. o. kurumeus* (Teleostei: Cyprinidae). Zoological Science, 18: 1027-1039.
211. Kawamura, K., R. Yonekura, O. Katano, Y. Taniguchi and K. Saitoh. 2006. Origin and dispersal of bluegill sunfish, *Lepomis macrochirus*, in Japan and Korea. Molecular Ecology, 15: 613-621.
212. Kawase, S. and K. Hosoya. 2015. *Pseudorasbora pugnax*, a new species of minnow from Japan, and redescription of *P. pumila* (Teleostei: Cyprinidae). Ichthyological Exploration of Freshwaters, 25: 289-298.
213. 川瀬好永・田代文男. 1982. ニジマスとアユに及ぼす濁りの影響について. 岐阜県水産試験場研究報告, 27:57-62.
214. Kfoury, J. R., N. Okamoto, M. Tanaka, M. Yoshimizu, S. E. LaPatra and M. Maita. 1996. “Rash” skin disease of rainbow trout. Fish Pathology, 31: 197-201.
215. Kijima, A. and D. Matsunami. 1992. Haplotypic differences and variability of mitochondrial DNA among cultured stocks of the masu salmon complex. Nippon Suisan Gakkaishi, 58: 1431-1436.
216. 木村敦子・古屋康則. 2011. 岐阜県産のドジョウ野生個体群の生殖年周期. 魚類学雑誌, 58:1-12.
217. Kimura, M. 1976. Hemoglobin electrophoretic patterns of loach, *Misgurnus anguillicaudatus*. The Japanese Journal of Genetics, 51: 143-145.
218. Kimura, M. 1976. Electrophoretic patterns of 6-phosphogluconate dehydrogenase, phosphoglucomutase and muscle protein of the loach, *Misgurnus anguillicaudatus*. The Japanese Journal of Genetics, 51: 285-288.
219. Kimura, M. 1977. Electrophoretic patterns of aspartate aminotransferase in the loach *Misgurnus anguillicaudatus*. Animal Blood Groups and Biochemical Genetics, 8: 115-117.
220. Kimura, M. 1978. Protein polymorphism and geographic variation in the loach *Misgurnus anguillicaudatus*. Animal Blood Groups and Biochemical Genetics, 9: 13-20.
221. Kimura, M. 1978. Protein polymorphism and genic variation in a population of the loach *Cobitis delicata*. Animal Blood Groups and Biochemical Genetics, 9: 183-186.
222. Kimura, M. 1978. Phosphoglucomutase electrophoretic patterns of the loach *Cobitis biwae*. Animal Blood Groups and Biochemical Genetics, 9: 187-189.
223. 木村正雄. 1979. ドジョウの蛋白質多型について. 家畜血液型研究情報, 7:5-8.
224. 木村正雄・尾庭きよ子. 1981. 各地のドジョウ集団の蛋白質多型. 家畜血液型研究情報, 9:

- 32-36.
225. Kimura, S., M. Okada, T. Yamashita, I. Taniyama, T. Yodo, M. Hirose, T. Sado and F. Kimura. 1999. Eggs, larvae and juveniles of the fishes occurring in the Nagara River estuary, central Japan. The Bulletin of the Faculty of Bioresources, Mie University, 23: 37-62.
226. Kimura, T., M. Yoshimizu and H. Yasuda. 1984. Rapid, simple serological diagnosis of infectious pancreatic necrosis by coagglutination test using antibody-sensitized staphylococci. Fish Pathology, 19: 25-33.
227. 岸 大弼. 2007. 底生魚の定位能力を観察する傾斜可変実験水路(H18-FU 型)について. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 54:19-21.
228. 岸 大弼・藤井亮吏・原 徹・熊崎隆夫・苅谷哲治・森美津雄・徳原哲也. 2014. 継代飼育サクラマスから得られた雌雄同体個体. 魚類学雑誌, 61:44-46.
229. 岸 大弼・藤井亮吏・大原健一・辻 寛人・徳原哲也. 2019. 飛騨地方におけるカジカ大卵型の分布および生息密度. 岐阜県水産研究所研究報告, 64:1-8.
230. 岸 大弼・藤井亮吏・辻 寛人. 2015. 継代飼育アマゴから得られた雌雄同体個体. 岐阜県水産研究所研究報告, 60:6-9.
231. 岸 大弼・原 徹・苅谷哲治・徳原哲也. 2011. 下呂支所敷地内の水路における魚類相. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 56:1-4.
232. 岸 大弼・原 徹・苅谷哲治・徳原哲也. 2012. 水路での木製構造物の設置による物理環境の改善と魚類に対する効果. 応用生態工学, 15:81-89.
233. 岸 大弼・苅谷哲治・徳原哲也. 2009. サケ科魚類の産卵床からのホースポンプによる発眼卵採集方法. 水産総合研究センター, 1:25-28.
234. 岸 大弼・徳原哲也. 2012. 飛騨地方南部の飛騨川支流群における魚類相. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 57:1-10.
235. 岸 大弼・徳原哲也. 2017. ヤマメ稚魚放流個体および発眼卵放流個体の残存状況と費用対効果の比較. 岐阜県水産研究所研究報告, 62:1-7.
236. 岸 大弼・徳原哲也. 2017. 岐阜県下呂市馬瀬に整備された人工産卵河川の物理環境およびイワナの産卵状況. 応用生態工学, 19:221-231.
237. 岸 大弼・徳原哲也. 2018. 飛騨地方の溪流におけるイワナおよびヤマメ・アマゴの産卵床の物理環境. 岐阜県水産研究所研究報告, 63:1-6.
238. 岸 大弼・徳原哲也. 2019. 昭和時代初期のサツキマスの分布:農林省水産局「河川漁業」の情報からの推定. 魚類学雑誌, 66:187-194.
239. 岸 大弼・辻 寛人・藤井亮吏・大原健一・徳原哲也. 2016. 飛騨地方の溪流におけるイワナおよびヤマメ・アマゴの産卵地点の標高・河床勾配・水面幅. 岐阜県水産研究所研究報告, 61:1-9.
240. Kitagawa, T., Y. Fujii and N. Koizumi. 2011. Origin of the two major distinct mtDNA clades of the Japanese population of the oriental weather loach *Misgurnus anguillicaudatus* (Teleostei:

- Cobitidae). *Folia Zoologica*, 60: 343–349.
241. Kitagawa, T., S. R. Jeon, E. Kitagawa, M. Yoshioka, M. Kashiwagi and T. Okazaki. 2005. Genetic relationships among the Japanese and Korean striated spined loach complex (Cobitidae: *Cobitis*) and their phylogenetic positions. *Ichthyological Research*, 52: 111–122.
242. Kitagawa, T., M. Watanabe, E. Kitagawa, M. Yoshioka, M. Kashiwagi and T. Okazaki. 2003. Phylogeography and the maternal origin of the tetraploid form of the Japanese spined loach, *Cobitis biwae*, revealed by mitochondrial DNA analysis. *Ichthyological Research*, 50: 318–325.
243. Kitagawa, T., M. Yoshioka, M. Kashiwagi and T. Okazaki. 2001. Population structure and local differentiation in the delicate loach, *Niwaella delicata*, as revealed by mitochondrial DNA and morphological analyses. *Ichthyological Research*, 48: 127–135.
244. 北原多作. 1893. 岐阜ノさくらバへに就テ. *動物学雑誌*, 5:242.
245. 北原多作. 1893. 岐阜縣産淡水魚類. *動物学雑誌*, 5:465–468.
246. 北西 滋・向井貴彦・山本俊昭・田子泰彦・尾田昌紀. 2017. サクラマス自然分布域におけるサツキマスによる遺伝的攪乱. *日本水産学会誌*, 83:400–402.
247. Kitanishi, S., A. Hayakawa, K. Takamura, J. Nakajima, Y. Kawaguchi, N. Onikura and T. Mukai. 2016. Phylogeography of *Opsariichthys platypus* in Japan based on mitochondrial DNA sequences. *Ichthyological Research*, 63: 506–518.
248. Kitanishi, S., N. Onikura and T. Mukai. 2018. A simple SNP genotyping method reveals extreme invasions of non-native haplotypes in pale chub *Opsariichthys platypus*, a common cyprinid fish in Japan. *PLoS ONE*, 13: e0191731.
249. Kitano, J., A. Ishikawa and M. Kusakabe. 2019. Parallel transcriptome evolution in stream threespine sticklebacks. *Development, Growth & Differentiation*, 61: 104–113.
250. Kitazima, J., M. Matsuda, S. Mori, T. Kokita and K. Watanabe. 2015. Population structure and cryptic replacement of local populations in the endangered bitterling *Acheilognathus cyanostigma*. *Ichthyological Research*, 62: 122–130.
251. 鬼頭英明・小瀬洋喜・林 恭三・佐藤孝彦・石川哲也・永瀬久光. 1984. 魚のメタロチオネインに関する比較研究. *衛生化学*, 30:275–283.
252. 小林久雄. 1936. アユ(鮎)の鱗に就て. *陸水学雑誌*, 6:56–62.
253. 小林久雄・前田 孟. 1961. 日本産タナゴ亜科魚類の咽頭骨と咽頭歯について. *日本水産学会誌*, 27:113–118.
254. Kobayashi, T., A. Ide, T. Hiasa, S. Fushiki and K. Ueno. 1994. Production of cloned amago salmon *Oncorhynchus rhodurus*. *Fisheries Science*, 60: 275–281.
255. 小池友香理・古屋康則. 2014. ミナミメダカにおける卵と精子の受精能保持時間. *魚類学雑誌*, 61:9–14.
256. 小泉清明・西脇正雄. 1954. ライギョ(*Channa argus* Cantor)の生態特に食性と環境条件に対する関係. *岐阜大学学芸学部研究報告(自然科学)*, 2:117–126.

257. 小泉清明・荻野登久・後藤孔明. 1955. 土岐川の水質並びに庭棲微生物と鮎の食餌との関係. 岐阜大学学芸学部研究報告(自然科学), 3:207-214.
258. 小島吉雄・一ツ町普也. 1969. どじょう科魚類の細胞遺伝学的研究 I. 動物学雑誌, 78:139-141.
259. 駒田格知. 1974. 変形アユの骨格系異常に関する研究. 魚病研究, 8:127-135.
260. 駒田格知. 1977. 海産・湖産・人工孵化アユにおける椎体の成長. 魚類学雑誌, 24:128-134.
261. 駒田格知. 1980. ワカサギ(*Hypomesus transpacificus nipponensis*)若・成魚の口部形態および歯の分布について. 歯科基礎医学会雑誌, 22:289-299.
262. 駒田格知. 1980. ウグイの椎体の成長について. 魚類学雑誌, 26:351-356.
263. 駒田格知. 1981. アマゴ(*Oncorhynchus rhodurus*)仔・稚魚の口部形態および歯の分布について. 歯科基礎医学会雑誌, 23:320-333.
264. 駒田格知. 1984. 人工ふ化稚アユ, *Plecoglossus altivelis*, の口部歯系の発達について. 歯科基礎医学会雑誌, 26:621-628.
265. 駒田格知. 1985. アユ稚魚の上がく骨上の歯の発達. 魚類学雑誌, 32:74-78.
266. 駒田格知. 1985. イワナ, *Salvelinus pluvius*, のじょ骨およびじょ骨歯の成長について. 歯科基礎医学会雑誌, 27:96-105.
267. Komada, N. 1982. Vertebral anomalies in the cyprinid fish, *Tribolodon hakonensis*. Japanese Journal of Ichthyology, 29: 185-192.
268. Komada, N. 1983. Occurrence and formation of vertebral anomalies in the cyprinid fish, *Zacco platypus*. Japanese Journal of Ichthyology, 30: 150-157.
269. 駒田格知・堀口陽万・岡本一則・今西嘉男. 1985. イワナ, *Salvelinus pluvius*, の口部歯系の発達について. 歯科基礎医学会雑誌, 27:16-26.
270. 駒田格知・中塚敏弘. 1988. ブルーギル, *Lepomis macrochirus*, の歯の分布について. 歯科基礎医学会雑誌, 30:732-740.
271. 小松史弥・松田宏典・後藤功一・各務博人. 2018. 飼育環境下におけるイタセンバラの卵・仔魚がインガイの生存に与える影響. 岐阜県水産研究所研究報告, 63:25-30.
272. 古屋康則・石川早苗・澤口小有美. 2004. カダヤシ *Gambusia affinis* の卵巣周期に及ぼす水温および光周期の影響. 魚類学雑誌, 51:43-50.
273. 古屋康則・木村敦子. 2013. ドジョウの野生個体に見られた雌雄同体現象. 魚類学雑誌, 60: 73-76.
274. 古屋康則・北川雄一. 2019. アメリカザリガニ *Procambarus clarkii* は魚類を捕食するか? 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 43:21-26.
275. 古屋康則・三宅 崇. 2012. 岐阜県内の教育機関における水生生物の放流活動の実態. 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 36:25-30.
276. 古屋康則・中谷優介. 1997. 岐阜県長良川支流伊自良川の魚類相. 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 22:7-12.

277. 古屋康則・吉松三博・三宅 崇. 2012. 小学校第 5 学年理科「水中の小さな生物」の授業に対応した, 「魚の食べもの調べ」の方法について. 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 36:31-35.
278. Koya, Y., R. Fujii, D. Tahara, H. Yambe and T. Natsumeda. 2020. Effects of preventing a temperature decrease during winter on reproduction of male small-egged Kajika, *Cottus pollux* SE. Fish Physiology and Biochemistry, 46: 1243-1253.
279. Koya, Y., R. Fujii, H. Yambe and D. Tahara. 2016. Nesting behavior is associated with increased urinary volume in the urinary bladder during the reproductive period in small-egged Kajika, *Cottus pollux* SE. Ichthyological Research, 63: 59-67.
280. Koya, Y., R. Fujii, H. Yambe and D. Tahara. 2016. Hypertrophy and polysaccharide production in the kidney associated with sexual maturation of male small-egged Kajika, *Cottus pollux* SE. Ichthyological Research, 63: 260-266.
281. Koya, Y., A. Fujita, F. Niki, E. Ishihara and H. Miyama. 2003. Sex differentiation and pubertal development of gonads in the viviparous mosquitofish, *Gambusia affinis*. Zoological Science, 20: 1231-1242.
282. Koya, Y., M. Inoue, T. Naruse and S. Sawaguchi. 2000. Dynamics of oocyte and embryonic development during ovarian cycle of the viviparous mosquitofish *Gambusia affinis*. Fisheries Science, 66: 63-70.
283. Koya, Y. and E. Kamiya. 2000. Environmental regulation of annual reproductive cycle in the mosquitofish, *Gambusia affinis*. Journal of Experimental Zoology, 286: 204-211.
284. Koya, Y., Y. Koike, R. Onchi and H. Munehara. 2013. Two patterns of parasitic male mating behavior and their reproductive success in Japanese medaka, *Oryzias latipes*. Zoological Science, 30: 76-82.
285. Kubo, K., K. Yamada and N. Komada. 2007. The distribution of proliferating cells during odontogenesis in the incisor teeth of *Plecoglossus altivelis*. Okajimas Folia Anatomica Japonica, 84: 67-70.
286. Kumagai, A. and A. Nawata. 2011. Concentration of flavobacterium psychrophilum in the ovarian fluid and milt of cultured salmonids. Fish Pathology, 46: 116-119.
287. Kumagai, A. and A. Nawata. 2011. Low likelihood of intra-ovum infection with flavobacterium psychrophilum in cultured salmonids in Japan. Fish Pathology, 46: 123-125.
288. 熊崎 博・本荘鉄夫・立川 互. 1979. ヤマメ(*Oncorhynchus masou*)とアマゴ(*O. rhodurus*)の交雑について-IIIF2 および退交雑種の形質. 岐阜県水産試験場研究報告, 24:25-32.
289. 熊崎 博・立川 互. 1985. 用水の反復使用が, 飼育魚の養魚成績, 健康及び品質等に及ぼす影響について. 岐阜県水産試験場研究報告, 30:21-28.
290. 熊崎 博・田代文男. 1985. アマゴの増殖に関する研究-XXIV アマゴ及びヤマメのスモルト化に及ぼす飼育条件の影響について. 岐阜県水産試験場研究報告, 30:13-20.

291. 熊崎 博・田代文男. 1987. アマゴの増殖に関する研究-XXV アマゴ及びヤマメのスモルト化に及ぼす飼育条件の影響について(2). 岐阜県水産試験場研究報告, 32:1-21.
292. 熊崎 博・田代文男. 1988. アマゴの増殖に関する研究-XXVI アマゴ及びヤマメの相分化に及ぼす飼育条件の影響について. 岐阜県水産試験場研究報告, 33:1-20.
293. 熊沢 恒・大崎雅勝・米村 健・柏 元三・本荘鉄夫. 1967. 油脂類給与によるコイ体脂質におよぼす影響. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 40 年度:51-60.
294. 桑田知宣. 1993. 染色体による有用魚類の品質改善研究-V 極体放出阻止型および卵割阻止型雌性発生二倍体ニジマス飼育における特性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 38:1-7.
295. 桑田知宣. 1996. 染色体操作による有用魚種の品質改善研究-VIII 性転換雄四倍体ニジマスの作出とその利用による全雌三倍体の作出について. 岐阜県水産試験場研究報告, 41:41-46.
296. 桑田知宣. 1998. 染色体操作によるサケ科魚類の育種に関する研究-II ニジマスの温度二回処理による第一卵割阻止について. 岐阜県水産試験場研究報告, 43:9-14.
297. 桑田知宣. 1999. 染色体操作によるサケ科魚類の育種に関する研究-III ニジマス卵の温度二回処理による第一卵割阻止について(一回目処理開始時期, 孵化用水の水温, 系統差, 処理強度の影響について). 岐阜県水産試験場研究報告, 44:9-17.
298. 桑田知宣. 2009. アユの効率的な媒精技術の開発受精液の使用による発生成績の改善. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 54:1-5.
299. 桑田知宣. 2013. アユの効率的な媒精技術の開発-II 低濃度の卵巣腔液による卵の粘着抑制. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 58:20-24.
300. 桑田知宣・一柳哲也・都竹仁一・岡崎 稔・臼田 博. 2000. 色彩色差計によるアマゴのスモルト化の定量的測定について-II. 岐阜県水産試験場研究報告, 45:33-37.
301. 桑田知宣・景山哲史・大原健一・原 徹・斉藤 薫. 2010. 冷水病に強く, 良く釣れる人工産アユ種苗の開発と利用冷水病耐病性, 釣獲特性, 遺伝的特性の系統間差. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 55:5-15.
302. 桑田知宣・熊崎隆夫・田口錠二. 1993. 染色体による有用魚類の品質改善研究-VI 温水循環式温度処理による三倍体アマゴの量産について. 岐阜県水産試験場研究報告, 38:8-13.
303. 桑田知宣・劉 雁輝・古屋康則. 2010. メチルテストステロン投与がアユの雌から雄への性転換に与える影響生殖腺の組織学的観察. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 55:39-44.
304. 桑田知宣・松田宏典・都竹仁一. 2000. 色彩色差計によるアマゴスモルト化の定量的測定について. 岐阜県水産試験場研究報告, 45:23-31.
305. 桑田知宣・松田宏典・臼田 博. 1992. 三倍体アユの特性評価研究-II 三倍体アユの雄魚の生殖能力について. 岐阜県水産試験場研究報告, 37:9-14.
306. 桑田知宣・中居 裕・森 美津雄. 2005. アマゴの冷水病発症時の生残特性に関する遺伝的影響. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 50:31-34.

307. 桑田知宣・大仲知樹・一柳哲也・荒井 真. 2001. 全雄アユの生産に関する研究-I 性転換雄の作出条件の検討. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 46:9-15.
308. 桑田知宣・斉藤 薫・荒井 真・都竹仁一・田口錠次・臼田 博. 1992. 三倍体アユの特性評価研究-III 河川内における三倍体アユの特性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 37:15-25.
309. 桑田知宣・徳原哲也. 2011. 長良川の支流におけるサツキマスの産卵床の特性. 水産増殖, 59:483-487.
310. 桑田知宣・都竹仁一. 1994. 染色体操作による有用魚種の品質改善研究-VII 温度処理によって作出したニジマス卵割阻止型雌性発生魚の再生産特性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 39:51-58.
311. 桑田知宣・都竹仁一・武藤義範・中山一郎. 1995. 染色体操作によるサケ科魚類の育種に関する研究-I クローンアマゴの特性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 40:19-33.
312. 桑田知宣・臼田 博・熊崎隆夫・都竹仁一. 1992. 染色体による有用魚類の品質改善研究-VI ニジマスの卵割阻止最適処理方法について. 岐阜県水産試験場研究報告, 37:1-7.
313. Liu, S.-M., K. Sezaki, K. Hashimoto and M. Nakamura. 1980. Distribution of polyploids of "Ginbuna" *Carassius auratus langsdorff* in Japan. Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries, 46: 413-418.
314. 劉 雁輝・桑田知宣・古屋康則. 2008. アユ *Plecoglossus altivelis altivelis* の生殖腺の性分化過程. 魚類学雑誌, 55:95-104.
315. Loganathan, B. G., S. Tanabe, M. Goto and R. Tatsukawa. 1989. Temporal trends of organochlorine residues in lizard goby *Rhinogobius flumineus* from the river Nagaragawa, Japan. Environmental Pollution, 62: 237-251.
316. Loganathan, B. G., S. Tanabe, R. Tatsukawa, K. Ogawa and M. Goto. 1989. Temporal changes of morphologic abnormalities and parasitic infestation in fishes from the River Nagaragawa, Japan. Nippon Suisan Gakkaishi, 55: 769-774.
317. Mabuchi, K., H. Senou and M. Nishida. 2008. Mitochondrial DNA analysis reveals cryptic large-scale invasion of non-native genotypes of common carp (*Cyprinus carpio*) in Japan. Molecular Ecology, 17: 796-809.
318. 馬淵和三・板垣 博・平松 研・清水英良・大西健夫. 2011. 鋼製折り返し魚道の開発とその特徴. Journal of Rainwater Catchment Systems, 17:25-32.
319. Mamun, M. S. A., K. Tsuchida, T. Onishi, K. Hiramatsu, A. Iwasawa and S. Nishimura. 2016. Medaka in Japanese agricultural water channels: genetic diversity and conservation. Reviews in Agricultural Science, 4: 8-20.
320. 松田宏典・原 徹. 2005. アユの生息密度に影響を及ぼす漁場環境要因. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 50:13-16.
321. 松田宏典・原 徹・長瀬 崇・桑田知宣. 2004. 長良川で採集した仔アユ内における陸封型の

- 混合率と交雑個体. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 49:1-5.
322. 松田宏典・原 徹・長瀬 崇・桑田知宣. 2005. 長良川で採集した仔アユ内における陸封型の混合率と交雑個体-II. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 50:1-6.
323. Matsuda, M., H. Yonekawa, S. Hamaguchi and M. Sakaizumi. 1997. Geographic variation and diversity in the mitochondrial DNA of the medaka, *Oryzias latipes*, as determined by restriction endonuclease analysis. Zoological Science, 14: 517-526.
324. 松里寿彦・金沢庸一. 1975. 養殖アマゴ *Oncorhynchus rhodurus* f. *macrostomus* (Guenther) の白内障(2). 南西海区水産研究所研究報告, 8:113-124.
325. 松里寿彦・上松和夫・田代文男. 1975. 養殖アマゴの白内障に関する研究-I. 魚病研究, 10:10-16.
326. McKay, S. J., I. Nakayama, M. J. Smith and R. H. Devlin. 1998. Genetic relationship between masu and amago salmon examined through sequence analysis of nuclear and mitochondrial DNA. Zoological Science, 15: 971-979.
327. 南谷臣昭・坂本友佳・永井宏幸・後藤黄太郎. 2017. LC-MS/MS によるアユ (*Plecoglossus altivelis*) 中のフェニコール系薬剤の分析. 食品衛生学雑誌, 58:143-148.
328. Miura, M., K. Hatai, H. Oono, N. Kaji and J. Nagura. 2009. Antifungal effect of potassium chloride (kci) on water mold infection in ayu *Plecoglossus altivelis* eggs. Fish Pathology, 44: 166-171.
329. 宮本良太・勝呂尚之・高久宏佑・細谷和海. 2008. 絶滅危惧種カワバタモロコの最適初期餌料系列. 水産増殖, 56:573-579.
330. Miyazaki, J., M. Dobashi, T. Tamura, S. Beppu, T. Sakai, M. Mihara and K. Hosoya. 2011. Parallel evolution in eight-barbel loaches of the genus *Lefua* (Balitoridae, Cypriniformes) revealed by mitochondrial and nuclear DNA phylogenies. Molecular Phylogenetics and Evolution, 60: 416-427.
331. Miyazaki, J., S. Hida, T. Ozaki, Y. Tabata, M. Iwata, M. Nakazawa, Y. Fukasawa and T. Asaka. 2017. Intraspecific relationships and variation of two *Lefua* species (Balitoridae, Cypriniformes) in the Tokai region, Honshu, Japan. Journal of Water Resource and Protection, 9: 238-253.
332. 宮崎照雄. 1973. 陸封型サケ属魚類の上皮壊死と水カビ着生を特徴とする流行病に関する研究-I. 魚病研究, 8:48-54.
333. 宮崎照雄・窪田三朗・田代文男. 1977. サケ科魚類稚魚の内臓真菌症に関する研究-I. 魚病研究, 11:183-186.
334. 望月聖子・大原健一. 2011. 水田水路における生息環境特性と水生生物相. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 56:5-14.
335. 望月聖子・大原健一. 2011. 室内飼育におけるウシモツゴの繁殖特性. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 56:15-21.
336. 茂木 博. 1975. イワナの増殖に関する研究-I 稚魚の飼育について(1). 岐阜県水産試験場

- 研究報告, 20:13-20.
337. 茂木 博・本荘鉄夫. 1975. 在来マス類の育種に関する研究-I ヤマメ及びアマゴの産地別飼育成績について. 岐阜県水産試験場研究報告, 20:39-54.
338. 茂木 博・本荘鉄夫. 1975. サケの飼育について. 岐阜県水産試験場研究報告, 20:123-126.
339. 茂木 博・本荘鉄夫・立川 互. 1975. ヤマメとアマゴの交雑について-I 交雑種 F1 の形質. 岐阜県水産試験場研究報告, 20:55-60.
340. 茂木 博・田代文男. 1978. マス類の成熟に及ぼす γ 線の影響について-I. 岐阜県水産試験場研究報告, 23:29-40.
341. 森川 進. 1972. アマゴ満1年雄魚の成熟期における死亡について. 岐阜県水産試験場研究報告, 17:55-59.
342. 森川 進. 1973. セツそう病に関する研究-VI アマゴ 0 年魚に対する菌浴ワクチンについて. 岐阜県水産試験場研究報告, 18:51-53.
343. 森川 進. 1973. 細菌性疾病の伝播防止のためのマス類種卵の消毒について. 岐阜県水産試験場研究報告, 18:61-63.
344. 森川 進. 1978. 在来マス類の肝腫瘍に関する研究-III1974~1976 年の自然発生状況について. 岐阜県水産試験場研究報告, 23:63-67.
345. 森川 進. 1985. 在来マス類の肝腫瘍に関する研究-IV1977 年~1984 年の自然発生状況について. 岐阜県水産試験場研究報告, 30:33-37.
346. 森川 進. 1987. アユおよびミジンコにおけるニフルピリノールの薬浴吸収. 岐阜県水産試験場研究報告, 32:13-15.
347. 森川 進. 1988. セツそう病に関する研究-XVI 実験感染アマゴ魚群からの飼育水中への排菌. 岐阜県水産試験場研究報告, 33:29-33.
348. 森川 進. 1989. セツそう病に関する研究-XVII サクラマスおよびアマゴのスモルトおよびパールの細菌性疾病に対する感受性の差異. 岐阜県水産試験場研究報告, 34:9-15.
349. 森川 進. 2003. サケ科魚類のセツそう病の防除に関する研究. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 48:1-234.
350. 森川 進・荒井 真・田代文男. 1976. セツそう病に関する研究-IX1975 年に県内で分離された *Aeromonas salmonicida* の薬剤感受性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:111-117.
351. 森川 進・荒井 真・田代文男. 1979. マス類のウイルス病に関する研究-VI アマゴ (*O. rhodurus*) の1年魚における IHN の発病例. 岐阜県水産試験場研究報告, 24:63-68.
352. 森川 進・本荘鉄夫・立川 互・岡崎 稔・熊崎隆夫. 1971. 在来マス類の放流に関する研究-I 蛇之尾地区における予備試験について. 岐阜県水産試験場研究報告, 16:53-61.
353. 森川 進・細江重男・田代文男. 1986. マス類のビブリオ病ワクチンに関する研究-I 岐阜水試における浸漬ワクチン効果判定試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 31:27-31.
354. 森川 進・家坂剛正・熊崎隆夫. 1971. セツそう病に関する研究-II アマゴに対する経皮ワクチ

- ン接種について. 岐阜県水産試験場研究報告, 16:73-77.
355. 森川 進・熊崎隆夫. 1972. せつそう病に関する研究-IV アマゴに対する経口ワクチン投与について. 岐阜県水産試験場研究報告, 17:51-54.
356. 森川 進・熊崎隆夫. 1973. せつそう病に関する研究-V アマゴに対する経皮ワクチン接種について(2). 岐阜県水産試験場研究報告, 18:45-49.
357. 森川 進・熊崎隆夫・立川 互. 1971. アマゴの増殖に関する研究(第 13 報)アマゴとヤマメの比較飼育について. 岐阜県水産試験場研究報告, 16:1-9.
358. 森川 進・熊崎隆夫・渡部邦夫・犬飼政昭・杉下 徹・田代文男・石井重男. 1983. 人工採苗アユに対するビブリオ病バクテリアの効果について. 岐阜県水産試験場研究報告, 28:59-70.
359. 森川 進・三木 知・田代文男. 1981. アマゴに *Aeromonas salmonicida* を接種した時の血液性状及び生菌数の消長. 魚病研究, 16:43-49.
360. 森川 進・立川 互・熊崎隆夫. 1971. アマゴの増殖に関する研究(第 14 報)親魚飼料添加油の比較について. 岐阜県水産試験場研究報告, 16:11-15.
361. 森川 進・立川 互・熊崎隆夫. 1971. せつそう病に関する研究-III 薬剤効果試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 16:79-82.
362. 森川 進・田代文男. 1976. せつそう病に関する研究-VII アマゴに対する超音波処理経口ワクチン投与について(1). 岐阜県水産試験場研究報告, 21:87-96.
363. 森川 進・田代文男. 1976. せつそう病に関する研究-VIII クロラムフェニコール・オキシテトラサイクリン・AMF-16・テトラサイクリン・ピロミド酸の治療効果・毒性・吸収について. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:97-110.
364. 森川 進・田代文男. 1980. せつそう病に関する研究-XII アマゴに対する経皮ワクチン接種について(3)水温が一定な飼育池における接種例. 岐阜県水産試験場研究報告, 25:11-15.
365. 森川 進・田代文男. 1982. *Aeromonas salmonicida* のアマゴに対する半数致死菌量. 魚病研究, 16:181-185.
366. 森川 進・田代文男. 1982. せつそう病に関する研究-XIV スルファジアジン, トリメトプリムおよび A-TP のアマゴに対する毒性およびせつそう病に対する治療効果. 岐阜県水産試験場研究報告, 27:49-55.
367. 森川 進・田代文男. 1984. せつそう病に関する研究-XV スルファモノメキシナトリウムとオルメトプリムの合剤の化学療法的研究. 岐阜県水産試験場研究報告, 29:33-48.
368. 森川 進・田代文男・河野 薫. 1979. せつそう病に関する研究-XI ピロミド酸の化学療法的研究. 岐阜県水産試験場研究報告, 24:33-49.
369. 森川 進・田代文男・谷口朝臣. 1975. せつそう病に関する研究-VI 薬剤に関する試験(1). 岐阜県水産試験場研究報告, 20:67-98.
370. 森川 進・上松和夫. 1973. 従来マス類の肝腫瘍に関する研究-I1970 年, 1971 年の発生状況について. 岐阜県水産試験場研究報告, 18:55-60.
371. 森川 進・上松和夫・原田賢之. 1975. 在来マス類の肝腫瘍に関する研究-II1972 年・1973 年

- の発生状況について. 岐阜県水産試験場研究報告, 20:105-110.
372. 森川 進・渡部邦夫・山本彦一・高橋 誠・田代文男. 1980. せつそう病に関する研究-XIII アマゴに対する経皮ワクチンの継続接種による効果. 岐阜県水産試験場研究報告, 25:23-25.
373. 森 美津雄. 1990. 三倍体アユの特性評価研究-I 三倍体アユの成長, 低酸素抵抗性および低水温抵抗性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 35:15-22.
374. 森 美津雄・藤井亮吏. 2012. カジカの初期飼育における日間摂餌量. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 57:11-14.
375. 森 美津雄・原 徹・後藤功一. 1998. 阿木川ダムにおける陸封アユの調査-I 湖内で発見されたアユ稚魚の起源について. 岐阜県水産試験場研究報告, 43:19-23.
376. 森 美津雄・池戸 利・石井重男. 1985. アユの初期飼育におけるレシチン添加効果について. 岐阜県水産試験場研究報告, 30:7-12.
377. 森 誠一. 1982. 養老山地東麓におけるハリヨの分布と現状. 淡水魚, 8:149-151.
378. 森 誠一. 1984. ハリヨの性的二型. 魚類学雑誌, 30:419-425.
379. Mori, S. 1985. Reproductive behaviour of the landlocked three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus microcephalus*, in Japan. Behaviour, 93: 21-35.
380. 森 誠一. 1985. ハリヨの分布. 淡水魚, 11:79-82.
381. Mori, S. 1987. Geographical variations in freshwater populations of the three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus*, in Japan. Japanese Journal of Ichthyology, 34: 33-46.
382. Mori, S. 1987. Divergence in reproductive ecology of the three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus*. Japanese Journal of Ichthyology, 34: 165-175.
383. Mori, S. 1993. The breeding system of the three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus* (forma leiura) with reference to spatial and temporal patterns of nesting activity. Behaviour, 126: 97-124.
384. Mori, S. 1994. Nest site choice by the three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus* (form leiurus), in spring-fed waters. Journal of Fish Biology, 45: 279-289.
385. Mori, S. 1995. Factors associated with and fitness effects of nest-raiding in the three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus*, in a natural situation. Behaviour, 132: 13-14.
386. Mori, S. 1995. Spatial and temporal variations in nesting success and the causes of nest losses of the freshwater three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus*. Environmental Biology of Fishes, 43: 323-328.
387. Mori, S. 1998. Dyadic relationships in nesting males of the three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus*. Environmental Biology of Fishes, 52: 243-250.
388. Mori, S. and M. Nagoshi. 1987. Growth and maturity size of the three-spined stickleback *Gasterosteus aculeatus* in rearing pool. Bulletin of the Faculty of Fisheries, Mie University, 14: 1-10.
389. 森 誠一・渡辺勝敏. 1990. 淡水魚の保護:ハリヨとネコギギの場合から. 淡水魚保護, 3:100-

- 109.
390. 森 茂寿. 1976. イワナの増殖に関する研究-II 馬瀬川産と醒井産の親魚(1 年魚)の飼育と採卵について. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:51-60.
391. 森 茂寿・石井重男. 1972. アユの種苗生産に関する研究アユ仔魚期の飼育用水について. 岐阜県水産試験場研究報告, 17:7-18.
392. 森 茂寿・村瀬恒男. 1979. 在来マス類の放流に関する研究-XIV 青色水槽によるアマゴのスマルト化試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 24:1-8.
393. 森 茂寿・岡崎 稔・本荘鉄夫. 1975. アジメドジョウの増殖に関する研究-III 池中における自然産卵と孵化仔・稚魚の飼育について. 岐阜県水産試験場研究報告, 20:21-26.
394. 森 茂寿・岡崎 稔・臼田 博・立川 互. 1986. アユの放流技術に関する研究-X 馬瀬川における二次放流の適正時期とサイズについて. 岐阜県水産試験場研究報告, 31:1-7.
395. 森 茂寿・岡崎 稔・臼田 博・立川 互. 1986. アユの放流技術に関する研究-XI 飛騨川における早期放流の効果について. 岐阜県水産試験場研究報告, 31:9-14.
396. 森 茂寿・立川 互. 1985. 在来マス類の放流に関する研究-XV 牛の甲状腺粉末投与によるアマゴのスマルト化. 岐阜県水産試験場研究報告, 30:1-6.
397. 森 茂寿・田口錠次. 1976. アジメドジョウの増殖に関する研究-IV 小型木製水槽内における自然産卵について. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:27-34.
398. 森 茂寿・田口錠次. 1976. アジメドジョウの増殖に関する研究-V 産卵床の構造について. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:35-39.
399. 森 茂寿・田口錠次. 1978. アジメドジョウの増殖に関する研究-VI 産卵水温について. 岐阜県水産試験場研究報告, 23:21-27.
400. 森 茂寿・田口錠次・本荘鉄夫. 1974. アジメドジョウの増殖に関する研究-II 河川における採捕について. 岐阜県水産試験場研究報告, 19:9-17.
401. Morishima, K., Y. Nakamura-Shiokawa, E. Bando, Y. J. Li, A. Boroń, M. M. R. Khan and K. Arai. 2008. Cryptic clonal lineages and genetic diversity in the loach *Misgurnus anguillicaudatus* (Teleostei: Cobitidae) inferred from nuclear and mitochondrial DNA analyses. *Genetica*, 132: 159-171.
402. 森 須美子・伊藤健吾・千家正照. 2012. 汎用化水田における水管理の変化が魚類の生息に及ぼす影響とそのミティゲーションについて. *Journal of Rainwater Catchment Systems*, 17: 35-41.
403. 森 須美子・伊藤健吾・千家正照. 2012. 低平水田地帯における環境配慮型水路の施工による魚類相の変化. *Journal of Rainwater Catchment Systems*, 17:43-49.
404. 森次益三・小林 純. 1960. 生物体内における微量金属の研究(第 1 報)アユに含まれる金属の地域的相違. *農学研究*, 47:149-188.
405. 向井貴彦. 2016. 岐阜市における歴史遺産としての絶滅危惧種ウシモツゴ. 岐阜大学地域科学部研究報告, 39:41-45.

406. 向井貴彦・二村 凌・丹羽大樹・後藤暁彦・三輪直生・石塚 航・矢迫雄一・高木雅紀. 2015. 岐阜県揖斐川支流におけるイワナとアマゴの交雑個体の形態および遺伝的特徴. 魚類学雑誌, 62:149-156.
407. 向井貴彦・池谷幸樹・古屋康則・大仲知樹・高木雅紀・塚原幸治・寺町 茂・吉村卓也. 2011. 岐阜県におけるスナヤツメ北方種と南方種の分布. 日本生物地理学会会報, 66:203-209.
408. 向井貴彦・北原佳郎・森口宏明・酒井博嗣・浅香智也・地村佳純. 2015. 西日本におけるビワヨシノボリ外来個体群の分布. 日本生物地理学会会報, 70:173-180.
409. 向井貴彦・北西 滋・伊藤 玄・古屋康則. 2016. 岐阜県の河川におけるブラウントラウトの分布拡大. 魚類学雑誌, 63:157-159.
410. 向井貴彦・古屋康則・楠田哲士. 2019. 市民等から提供された岐阜県の新たな外来種の侵入記録. 岐阜大学地域科学部研究報告, 44:27-39.
411. 向井貴彦・古屋康則・千藤克彦. 2012. 岐阜県産魚類目録の再検討. 岐阜県博物館調査研究報告, 33:29-37.
412. 向井貴彦・国崎 亮・淀 太我・寺町 茂・千藤克彦・説田健一. 2013. 岐阜県における 2 種の外来ナマズ目魚類の野外での初記録と文献に基づく岐阜県産魚類目録の改訂. 岐阜県博物館調査研究報告, 34:47-54.
413. 向井貴彦・長野浩文・長野 光・宮島弘佳・千藤克彦・説田健一. 2014. 岐阜県での分布が確認されたボウズハゼおよび証拠を伴う外来魚 5 種の記録. 岐阜県博物館調査研究報告, 35:1-9.
414. 向井貴彦・説田健一. 2015. 長良川で採集されたレッドテールキャットフィッシュとマダラロリカリア. 岐阜県博物館調査研究報告, 36:19-24.
415. 向井貴彦・梅村啓太郎・高木雅紀. 2011. 岐阜県におけるカラドジョウの初記録と中国系ドジョウの侵入. 日本生物地理学会会報, 66:85-92.
416. Muramoto, J. and K. Igarashi. 1969. A preliminary note on the chromosomes and enzymatic patterns of three forms of sticklebacks. Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University. Series 6, Zoology, 17: 266-270.
417. 村瀬英彦. 2007. 美濃加茂市の文化財保護行政における天然記念物ネコギギの保護経緯と現状. 美濃加茂市民ミュージアム紀要, 6:9-17.
418. 武藤義範・浅野篤志・原 徹・斉藤 薫・土川博之. 1996. 長良川におけるアユ仔魚の降下状況, 1994 年. 岐阜県水産試験場研究報告, 41:37-40.
419. 武藤義範・原 徹・斉藤 薫. 1994. 全雌二倍体アマゴの環境特性評価試験-I 全雌アマゴの飼育と再生産特性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 39:29-36.
420. 武藤義範・原 徹・斉藤 薫. 1995. 全雌アマゴの環境特性評価試験-II 全雌アマゴの飼育特性及び海水適応能について. 岐阜県水産試験場研究報告, 40:35-41.
421. 武藤義範・原 徹・斉藤 薫. 1996. 全雌アマゴの環境特性評価試験-III 全雌アマゴの遺伝的特性及び産卵生態について. 岐阜県水産試験場研究報告, 41:17-23.

422. 武藤義範・本田隆博・荻谷哲治・桑田知宣. 2013. 帰属性解析を用いたアユの由来判別による早期の種苗放流効果の評価. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 58:1-7.
423. 武藤義範・本田隆博・荻谷哲治・桑田知宣. 2014. 帰属性解析を用いたアユの由来判別による早期種苗放流効果の評価-II. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 59:4-12.
424. Nagahama, Y. and S. Adachi. 1985. Identification of maturation-inducing steroid in a teleost, the amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*). *Developmental Biology*, 109: 428-435.
425. Nagahama, Y., K. Hirose, G. Young, S. Adachi, K. Suzuki and B. Tamaoki. 1983. Relative in vitro effectiveness of $17\alpha, 20\beta$ -dihydroxy-4-pregnen-3-one and other pregnene derivatives on germinal vesicle breakdown in oocytes of ayu (*Plecoglossus altivelis*), amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*), rainbow trout (*Salmo gairdneri*), and goldfish (*Carassius auratus*). *General and Comparative Endocrinology*, 51: 15-23.
426. Nagahama, Y. and H. Kagawa. 1982. In vitro steroid production in the postovulatory follicles of the amago salmon, *Oncorhynchus rhodurus*, in response to salmon gonadotropin. *Journal of Experimental Zoology*, 219: 105-109.
427. 長浜嘉孝・香川浩彦・田代文男. 1980. 種々の生殖腺刺激ホルモンおよびステロイドホルモンによるアマゴ *Oncorhynchus rhodurus* とニジマス *Salmo gairdneri* の in vitro 卵成熟誘起効果. 日本水産学会誌, 46:1097-1102.
428. Nagahama, Y., G. Young and S. Adachi. 1985. Effect of actinomycin d and cycloheximide on gonadotropin-induced $17\alpha, 20\beta$ -dihydroxy-4-pregnen-3-one production by intact ovarian follicles and granulosa cells of the amago salmon, *Oncorhynchus rhodurus*. *Developmental & Comparative Immunology*, 27: 213-221.
429. Nagata, Y., T. Yoshimura and S. Mori. 1988. Courtship behavior of the freshwater three-spined stickleback *Gasterosteus aculeatus* (leirus form) in Japan. *Memoirs of Osaka Kyoiku University. Ser. III, Natural science and applied science*, 37: 29-36.
430. Nakagawa, H., S. Seki, T. Ishikawa and K. Watanabe. 2016. Genetic population structure of the Japanese torrent catfish *Liobagrus reinii* (Amblycipitidae) inferred from mitochondrial cytochrome b variations. *Ichthyological Research*, 63: 333-346.
431. 中居 裕. 1992. *Oncorhynchus masou* Virus (OMV) に関する研究-III 岐阜県水産試験場で飼育中のサクラマスにおける OMV 誘発腫瘍の発現状況について. 岐阜県水産試験場研究報告, 37:27-31.
432. 中居 裕. 1993. アユのビブリオ病ワクチンに関する研究. 岐阜県水産試験場研究報告, 38: 14-19.
433. 中居 裕. 1994. 伝染性造血器壊死症 (IHN) に関する研究-I 大型魚由来分離株のニジマスに対する病原性. 岐阜県水産試験場研究報告, 39:37-44.
434. 中居 裕. 1998. 従来より高水温で発病した伝染性造血器壊死症. 岐阜県水産試験場研究報告, 43:29-30.

435. 中居 裕. 1999. 伝染性造血器壊死症(IHN)に関する研究-2 大型魚由来 IHNV 分離株のアマゴに対する病原性. 岐阜県水産試験場研究報告, 44:19-23.
436. 中居 裕. 2001. アユ及びニジマス由来冷水病原菌のニジマスに対する病原性. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 46:17-21.
437. 中居 裕. 2009. 蒸留水・淡水・人工海水中のアユ由来冷水病原菌の生存性. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 54:15-17.
438. 中居 裕・荒井 真・森川 進. 1988. ニジマスにおける IPVN(伝染性腭臓壊死症ウイルス)に対する移行抗体の検討. 岐阜県水産試験場研究報告, 33:49-54.
439. 中居 裕・原 徹. 2019. マス類の卵膜軟化症症状再現方法の検討. 岐阜県水産研究所研究報告, 64:13-23.
440. 中居 裕・景山哲史. 2007. オゾン水によるアユ受精卵の冷水病原菌消毒の可能性. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 52:11-17.
441. 中居 裕・小松 功. 2000. サケ科魚類 β 溶血性連鎖球菌症不活化注射ワクチンのヤマメに対する有効性. 岐阜県水産試験場研究報告, 45:39-42.
442. 中居 裕・森川 進. 1988. *Oncorhynchus masou* Virus (OMV) に関する研究-I サクラマス (*Oncorhynchus masou*) より分離された OMV について. 岐阜県水産試験場研究報告, 33:45-48.
443. 中居 裕・森川 進. 1989. *Oncorhynchus masou* Virus (OMV) に関する研究-II 岐阜県内で飼育中のサケ科魚類における OMV 誘発腫瘍の発現状況について. 岐阜県水産試験場研究報告, 34:17-19.
444. 中居 裕・辻 寛人. 2020. アユの *Edwardsiella ictaluri* 感染症における, 発病後および保菌魚の臓器別原因菌分布状況. 岐阜県水産研究所研究報告, 65:11-16.
445. Nakajima, J. 2012. Taxonomic study of the *Cobitis striata* complex (Cypriniformes, Cobitidae) in Japan. Zootaxa, 3586: 103-130.
446. 中島 淳・洲澤 譲・清水孝昭・斉藤憲治. 2012. 日本産シマドジョウ属魚類の標準和名の提唱. 魚類学雑誌, 59:86-95.
447. Nakajima, M. and Y. Fujio. 1995. Genetic differentiation among local population of Japanese char *Salvelinus leucomaenis*. Fisheries Science, 61: 11-15.
448. Nakajima, T., H. Yoshida, Y. Hotta and B. Sone. 1986. Tooth replacements in the crucian carps, the genus *Carassius* of the family cyprinidae. Japanese Journal of Oral Biology, 28: 370-374.
449. Nakamura, M. 1994. A study of susceptibility of sex reversal after a single 2-hour treatment of androgen in amago salmon. Fisheries Science, 60: 483-484.
450. Nakamura, M. and Y. Nagahama. 1993. Ultrastructural study on the differentiation and development of steroid-producing cells during ovarian differentiation in the amago salmon, *Oncorhynchus rhodurus*. Aquaculture, 112: 237-251.

451. 中村智幸・徳田幸憲・高橋剛一郎. 2009. 人工産卵河川におけるイワナの産卵と当歳魚の動態. 応用生態工学, 12:1-12.
452. 中野 繁・中島 恬. 1989. 岐阜県の温泉地におけるナイルテラピア (*Oreochromis niloticus*) の自然繁殖. 岐阜県博物館調査研究報告, 10:9-12.
453. Nakao, R., Y. Iguchi, N. Koyama, K. Nakai and T. Kitagawa. 2017. Current status of genetic disturbances in wild medaka populations (*Oryzias latipes* species complex) in Japan. Ichthyological Research, 64: 116-119.
454. 長澤和也・原 徹・徳原哲也・岸 大弼. 2020. 岐阜県の飼育アマゴに寄生していたチョウモドキと被寄生魚の体表に見られた暗色斑紋. CANCER, 29:e125-e129.
455. 名和 靖. 1893. 岐阜産サクラバエ. 動物学雑誌, 5:240-241.
456. Negishi, J. N., S. Nagayama, M. Kume, S. Sagawa, Y. Kayaba and Y. Yamanaka. 2013. Unionoid mussels as an indicator of fish communities: A conceptual framework and empirical evidence. Ecological Indicators, 24: 127-137.
457. Niwa, H. 1937. A new species of Cobitidae from Japan (*Cobitis delicata*). Zoological Magazine, 49: 71-74.
458. 丹羽 彌. 1939. アジメドジョウの特徴, 分布および地方的変異. 動物学雑誌, 51:97-98.
459. 丹羽 彌. 1940. 木曽川本流に於ける魚類の生態的分布. 動物学雑誌, 52:69-70.
460. 野村俊太・川上紳一・古屋康則・船戸 智. 2011. グッピーを用いた遺伝の規則性を見いだすための教材開発. 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 35:93-95.
461. Ogata, H., S. Arai and T. Nose. 1983. Growth responses of cherry salmon *Oncorhynchus masou* and amago salmon *O. rhodurus* fry fed purified casein diets supplemented with amino acids. Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries, 49: 1381-1385.
462. Ogata, H. Y., S. Konno and J. T. Silverstein. 1998. Muscular buffering capacity of the parr and smolts in *Oncorhynchus masou*. Aquaculture, 168: 303-310.
463. 小木曾卓郎. 1965. 有機水銀剤のユイに対する毒性について(II). 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:152-154.
464. 小木曾卓郎. 1967. アユ養成飼料に於けるコーキンプレミックス(アユ用)の添加による効果について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 40 年度:23-27.
465. 小木曾卓郎. 1968. ニジマス春稚魚の疾病について IV 当場に於けるニジマス全春稚魚の瀕死状況調査につて. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 41 年度:67-74.
466. 小木曾卓郎. 1973. ニジマスに対する有機りん剤の一種に毒性に及ぼす水温の影響について. 岐阜県水産試験場研究報告, 18:73-77.
467. 小木曾卓郎・船坂義郎・石井重男. 1965. アユの親魚養成飼料並びに成熟統御に関する研究. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:74-83.
468. 小木曾卓郎・船坂義郎・石井重男. 1965. アユの成熟促進試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:133-139.

469. 小木曾卓郎・船坂義郎・石井重男. 1967. アユ親魚養成餌料並びに成熟統御に関する試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 40 年度:28-36.
470. 小木曾卓郎・後藤勝秋. 1975. 薬浴治療剤の毒性に関する研究-III ニジマスの薬剤感受性に及ぼす水温の影響について(3). 岐阜県水産試験場研究報告, 20:111-119.
471. 小木曾卓郎・後藤勝秋・細江重男. 1974. 薬浴治療剤の毒性に関する研究-II ニジマスの薬剤感受性に及ぼす水温の影響について(2). 岐阜県水産試験場研究報告, 19:37-45.
472. 小木曾卓郎・家坂剛正・岡崎 稔・都竹仁一. 1970. アユ種苗生産に関する研究アユ仔魚の飼育について(1). 岐阜県水産試験場研究報告, 15:1-7.
473. 小木曾卓郎・石井重男. 1965. アユ養成飼料におけるたん白質の適正給与量について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:84-89.
474. 小木曾卓郎・石井重男. 1967. アユ養成飼料について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 40 年度:11-22.
475. 小木曾卓郎・石井重男. 1968. アユの親魚養成餌料並びに成熟統御に関する試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 41 年度:19-35.
476. 小木曾卓郎・石井重男. 1968. アユ食用魚養成餌料に関する試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 41 年度:36-45.
477. 小木曾卓郎・石井重男・都竹仁一. 1969. アユの成熟統御並びに親魚飼育飼料について IV. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 42 年度:78-92.
478. 小木曾卓郎・森川 進・岡崎 稔. 1973. 薬浴治療剤の毒性に関する研究-I ニジマスの薬剤感受性に及ぼす水温の影響について. 岐阜県水産試験場研究報告, 18:65-72.
479. 小木曾卓郎・村瀬恒夫. 1965. 有機水銀剤のコイに対する毒性について(I). 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:150-151.
480. 小木曾卓郎・田口錠次. 1975. ポリ塩化ビニル・フィルムの浸出液が魚類に及ぼす影響について. 岐阜県水産試験場研究報告, 20:137-146.
481. 岡田敏秋・葛野 浩. 1958. 魚類胆嚢上皮の分泌機能像についての研究. 岐阜大学農学部研究報告, 9:171-177.
482. 岡崎 稔・荒井 真・桑田知宣. 1997. 全雌異質三倍体ニジアマの飼育特性について-I. 岐阜県水産試験場研究報告, 42:27-31.
483. 岡崎 稔・浅野篤志・荒井 真. 1989. 岐阜県内におけるオオクチバス *Micropterus salmoides* の分布の実態-II. 岐阜県水産試験場研究報告, 34:21-26.
484. 岡崎 稔・本荘鉄夫・村瀬恒男・森 茂寿・立川 互. 1981. 在来マス類の放流に関する研究-XV スモルト型アマゴの放流適地について. 岐阜県水産試験場研究報告, 26:11-25.
485. 岡崎 稔・本荘鉄夫・立川 互. 1972. 在来マス類の放流に関する研究-III 黒石谷におけるアマゴの放流試験(1). 岐阜県水産試験場研究報告, 17:35-50.
486. 岡崎 稔・本荘鉄夫・立川 互. 1973. 長良川の遡河マスの漁獲量とその体形について. 岐阜県水産試験場研究報告, 18:85-89.

487. 岡崎 稔・一柳哲也・熊崎隆夫・荒井 真. 2000. 飛騨清流河ふぐの養殖量産化試験-II. 岐阜県水産試験場研究報告, 45:53-57.
488. 岡崎 稔・一柳哲也・臼田 博. 2000. 飛騨清流河ふぐの養殖量産化試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 45:49-52.
489. 岡崎 稔・熊崎 博. 1995. 人工精漿によって希釈した精液の有効性. 岐阜県水産試験場研究報告, 40:7-10.
490. 岡崎 稔・桑田知宣・森 茂寿. 1996. アユ種苗生産における人工精漿によって希釈した精液の有効性-II. 岐阜県水産試験場研究報告, 41:13-16.
491. 岡崎 稔・小木曾卓郎. 1971. オイカワの増殖に関する研究-1 オイカワの採卵, ふ化及び仔稚魚の飼育について. 岐阜県水産試験場研究報告, 16:43-52.
492. 岡崎 稔・小木曾卓郎. 1976. 人工採苗アユの放流効果に関する研究-III 飛騨川における放流効果について(1). 岐阜県水産試験場研究報告, 21:133-137.
493. 岡崎 稔・小木曾卓郎. 1977. 人工採苗アユ(*Plecoglossus altivelis*)の放流効果に関する研究-IV 飛騨川における放流効果について(2). 岐阜県水産試験場研究報告, 22:115-122.
494. 岡崎 稔・小木曾卓郎・家坂剛正. 1970. ニジマス用色付け飼料が, ニジマスの肉色, 体色, 及び卵色と発眼率に及ぼす影響について. 岐阜県水産試験場研究報告, 15:67-74.
495. 岡崎 稔・立川 互. 1973. 従来マス類の放流に関する研究-IV 臀鰭切除後の再生について. 岐阜県水産試験場研究報告, 18:15-16.
496. 岡崎 稔・立川 互・本荘鉄夫・原田増造・宇野将義. 1983. 在来マス類の放流に関する研究-XVIII 降海性アマゴの母川回帰について. 岐阜県水産試験場研究報告, 28:17-31.
497. 岡崎 稔・立川 互・本荘鉄夫・森 茂寿・今泉克英・原田増造. 1982. 在来マス類の放流に関する研究-XVII 木曾川におけるスモルト型アマゴ放流効果ならびに降海におよぼす堰の影響について. 岐阜県水産試験場研究報告, 27:13-26.
498. 岡崎 稔・立川 互・本荘鉄夫・村瀬恒男・森 茂寿・今泉克英・原田増造. 1982. 在来マス類の放流に関する研究-XVI 長良川におけるスモルト型アマゴの放流適地について. 岐阜県水産試験場研究報告, 27:1-11.
499. 岡崎 稔・都竹仁一. 1974. 配合飼料によるニシキゴイ仔魚の飼育について. 岐阜県水産試験場研究報告, 19:33-36.
500. 岡崎 稔・宇野康司. 1969. アユ食用魚の飼育飼料について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 42 年度:48-53.
501. 岡崎 稔・宇野康司・都竹仁一. 1974. ニシキゴイの品質改良に関する研究-III 浅黄, 秋水の形付魚の出現率について. 岐阜県水産試験場研究報告, 19:67-71.
502. 岡崎 稔・山田利夫. 1973. 新しい魚類用麻酔薬の効果について. 岐阜県水産試験場研究報告, 18:91-93.
503. 岡崎 稔・山田利夫. 1973. 人工湖, 御母衣ダムの環境調査(魚族増殖の検討の予備資料). 岐阜県水産試験場研究報告, 18:95-101.

504. Okazaki, T., S. -R. Jeon, M. Watanabe and T. Kitagawa. 1999. Genetic relationships of Japanese and Korean bagrid catfishes inferred from mitochondrial DNA analysis. *Zoological Science*, 16: 363-373.
505. Omura, Y. and M. Oguri. 1991. Photoreceptor development in the pineal organ and the eye of *Plecoglossus altivelis* and *Paralichthys olivaceus* (Teleostei). *Cell and Tissue Research*, 266: 315-323.
506. 小野田幸生・萱場祐一. 2013. 石礫河床への大量の覆砂が魚類生息密度に及ぼす影響について. *河川技術論文集*, 19:525-530.
507. 小野田幸生・佐川志朗・上野公彦・尾崎正樹・久米 学・相川隆生・森 照貴・萱場祐一. 2011. 流速の増大がオイカワによる水際の緩流域利用頻度に及ぼす影響. *河川技術論文集*, 17: 197-202.
508. Oohara, I. and T. Okazaki. 1996. Genetic relationship among three subspecies of *Oncorhynchus masou* determined by mitochondrial DNA sequence analysis. *Zoological Science*, 13: 189-198.
509. 大原健一・景山哲史・桑田知宣・海野徹也・古澤修一・吉浦康寿. 2009. リアルタイム PCR を用いたアユ冷水病魚における *Flavobacterium psychrophilum* の定量性の検討. *日本水産学会誌*, 75:258-260.
510. 大原健一・望月聖子. 2010. 瑞穂市内の小河川および水路に出現する水路に出現する魚類の種組成の季節変化. *岐阜県河川環境研究所研究報告*, 55:31-38.
511. 大原健一・田中綾子・苅谷哲治・松田宏典. 2019. 冷水病に強いアユ養殖種苗の開発. *岐阜県水産研究所研究報告*, 64:9-12.
512. Orti, G., M. A. Bell, T.E. Reimchen and A. Meyer. 1994. Global survey of mitochondrial DNA sequences in the threespine stickleback: evidence for recent migrations. *Evolution*, 48: 608-622.
513. 小瀬洋喜・船坂鐔三・中島 祚・佐藤孝彦. 1975. 長良川の異臭魚に関する研究(第 1 報)異臭魚の生息水域と水質. *衛生化学*, 21:9-17.
514. 小瀬洋喜・船坂鐔三・佐藤孝彦. 1975. 長良川の異臭魚に関する研究(第 2 報)異臭魚原因物質としての揮発性脂肪酸. *衛生化学*, 21:28-34.
515. Otake, T., C. Yamada and K. Uchida. 2002. Contribution of stocked ayu (*Plecoglossus altivelis altivelis*) to reproduction in the Nagara River, Japan. *Fisheries Science*, 68: 948-950.
516. Otaki, K. 1908. Stickle-backs of Japan. *Transactions of the Sapporo Natural History Society*, 2: 85-91.
517. Ozaki, H., M. Ohwaki and T. Fukada. 1983. Studies on lectins of amago (*Oncorhynchus rhodurus*) I. Amago ova lectin and its receptor on homologous macrophages. *Developmental & Comparative Immunology*, 7: 77-87.
518. Rahman, M. and K. Arai. 2000. Allozyme variation and genetic differentiation in the loach

- Misgurnus anguillicaudatus*. Fisheries Science, 66: 211-222.
519. 佐川志朗・萱場祐一・久米 学・森 誠一. 2011. イタセンバラを育む木曽川氾濫原生生態系の理解と再生への取り組み. 土木技術資料, 53:6-9.
520. Saitoh, K. and H. Aizawa. 1987. Local differentiation within the striated spined loach (the striata type of *Cobitis taenia* complex). Japanese Journal of Ichthyology, 34: 334- 345.
521. 斉藤 薫. 1984. イワナの生殖腺の成熟と魚体の大きさについて. 岐阜県水産試験場研究報告, 29:49-51.
522. 斉藤 薫. 1984. 姉川および宮川由来のイワナの脊椎骨数等の比較. 岐阜県水産試験場研究報告, 29:53-54.
523. 斉藤 薫. 1990. イワナの増殖に関する研究-VIII 採卵数量等について. 岐阜県水産試験場研究報告, 35:1-13.
524. 斉藤 薫・熊崎隆夫・立川 互. 1976. イワナの増殖に関する研究-III イワナの生殖腺の発達過程について. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:61-65.
525. 斉藤 薫・熊崎隆夫・立川 互. 1976. イワナの増殖に関する研究-IV 孵化用水の適温について. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:67-70.
526. 斉藤 薫・熊崎隆夫・立川 互. 1977. イワナの増殖に関する研究-V 餌付け飼料について(1). 岐阜県水産試験場研究報告, 22:123-129.
527. 斉藤 薫・森 美津雄・船木和茂・岡崎 稔・立川互. 1983. アユの放流技術に関する研究-V 馬瀬川における二次放流について(2). 岐阜県水産試験場研究報告, 28:47-52.
528. 斉藤 薫・森 美津雄・船木和茂・岡崎 稔・立川互. 1983. アユの放流技術に関する研究-飛騨川における晩期種苗の放流効果について(1). 岐阜県水産試験場研究報告, 28:53-57.
529. 斉藤 薫・岡崎 稔・森 美津雄・船木和茂・立川互. 1984. アユの放流技術に関する研究-IX 飛騨川および馬瀬川における琵琶湖産アユ晩期種苗の放流効果について. 岐阜県水産試験場研究報告, 29:23-21.
530. 斉藤 薫・立川 互. 1978. イワナの増殖に関する研究-VI 餌付け飼餌料について(2). 岐阜県水産試験場研究報告, 23:41-47.
531. 斉藤 薫・立川 互. 1979. イワナの増殖に関する研究-VII 産地由来および放流密度が異なる孵化仔魚の餌付けについて. 岐阜県水産試験場研究報告, 24:19-23.
532. 斉藤 薫・臼田 博・立川 互. 1981. アユの放流技術に関する研究-I 馬瀬川上流における二次放流について(1). 岐阜県水産試験場研究報告, 26:39-45.
533. 斉藤 薫・臼田 博・立川 互. 1982. アユの放流技術に関する研究-IV 馬瀬川におけるアユの放流時期について. 岐阜県水産試験場研究報告, 27:37-40.
534. Saito, M., T. Kuwada, M. Arai, Y. Yamashita, T. Aoki and N. Kunisaki. 1997. Changes of the proximate composition and some minor constituents of the muscular tissue from cultured diploid and triploid amago during growth. Fisheries Science, 63: 639-643.
535. Sakai, H., C. Yamamoto and A. Iwata. 1998. Genetic divergence, variation and zoogeography

- of a freshwater goby, *Odontobutis obscura*. Ichthyological Research, 45: 363-376.
536. 酒井秀嗣・佐藤 恵. 2013. 1950 年代に日本大学歯学部学生が採集した魚類標本に関する手控え. 日本大学歯学部紀要, 41:89-96.
537. Sakai, N., H. Ueda, N. Suzuki and Y. Nagahama. 1989. Steroid production by amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*) testes at different developmental stages. General and Comparative Endocrinology, 75: 231-240.
538. Sakamoto, T., N. Okamoto and Y. Ikeda. 1996. Application of PCR primer pairs from rainbow trout to detect polymorphisms of CA repeat DNA loci in five confamilial species. Fisheries Science, 62: 552-555.
539. 佐古 浩・反町 稔. 1984. 降海性アマゴから分離されたビブリオ菌について. 養殖研究所研究報告, 5:63-69.
540. Salem, M. A. and Y. Omura. 1998. Light and electron microscopic studies on the development of the inner ear and otolith of the ayu *Plecoglossus altivelis*. Fisheries Science, 64: 259-264.
541. Sano, T. 1972. Studies on virak diseases of Japanese fishes-III. Infectious pancreatic necrosis of rainbow trout: geographical and seasonal distributions in Japan. Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries, 38: 313-316.
542. Sano, T. and T. Yamazaki. 1973. Studies on viral diseases of Japanese fishes-V infectious pancreatic necrosis of amago trout. Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries, 39: 477-480.
543. 佐藤千夏・向井貴彦・淀 太我・佐久間 徹・中井克樹. 2007. 日本国内におけるコクチバスの mtDNA ハプロタイプ分布. 魚類学雑誌, 54:225-230.
544. 佐藤光雄. 1958. シマドジョウおよびアジメドジョウの側線系. 魚類学雑誌, 7:33-37.
545. 沢田 隼・米倉竜次・丸山 敦. 2018. アユの炭素・窒素安定同位体分析のための脂質量補正式と筋肉, 卵巣, 粘液における濃縮係数. 魚類学雑誌, 65:1-7.
546. Sawada, Y. and I. S. Kim. 1977. Transfer of *Cobitis multifasciata* to the genus *Niwaella* (Cobitidae). Japanese Journal of Ichthyology, 24: 155-160.
547. Sawaguchi, S., Y. Koya, N. Yoshizaki, N. Ohkubo, T. Andoh, N. Hiramatsu, C. V. Sullivan, A. Hara and T. Matsubara. 2005. Multiple vitellogenins (vgs) in mosquitofish (*Gambusia affinis*): identification and characterization of three functional vg genes and their circulating and yolk protein products. Biology of Reproduction, 72: 1045-1060.
548. Sawaguchi, S., N. Ohkubo, Y. Koya and T. Matsubara. 2005. Incorporation and utilization of multiple forms of vitellogenin and their derivative yolk proteins during vitellogenesis and embryonic development in the mosquitofish, *Gambusia affinis*. Zoological Science, 22: 701-710.
549. 仙波 治. 1967. 岐阜県の動物相概説. 採集と飼育, 29:278-282.
550. 千藤克彦・三輪芳明. 2011. 「瀬替え」によって得られた長良川中流部の魚類相. 岐阜県博

- 物館調査研究報告, 32:27-31.
551. 瀬崎啓次郎・小林 弘・渡部終五・橋本周久. 1985. 日本産ドジョウ科魚類の赤血球径と倍数性. 日本水産学会誌, 51:777-781.
552. Shimizu, T., N. Taniguchi and N. Mizuno. 1993. An electrophoretic study of genetic differentiation of a Japanese freshwater goby, *Rhinogobius flumineus*. Japanese Journal of Ichthyology, 39: 329-343.
553. Shimizu, Y., T. Oshiro and M. Sakaizumi. 1993. Electrophoretic studies of diploid, triploid, and tetraploid forms of the Japanese silver crucian carp, *Carassius auratus langsdorffii*. Japanese Journal of Ichthyology, 40: 65-75.
554. 下村雄志・田原大輔・藤井亮吏・岸 大弼. 2020. 小型円形水槽におけるアユカケ0歳魚の成長および成熟特性. 岐阜県水産研究所研究報告, 65:25-29.
555. 穴戸一郎. 1890. イトワ科の魚類に就いて. 動物学雑誌, 2:111-115.
556. 柴田宇光・林 恭行・森腰俊亨・津久美清・島倉省吾・福士秀人・平井克哉. 1984. 岐阜県における淡水魚のウイルス性及び細菌性疾患の疫学的調査. 岐阜大学農学部研究報告, 49: 217-228.
557. Silverstein, J. T., H. Shimma and H. Ogata. 1997. Early maturity in amago salmon (*Oncorhynchus masu ishikawai*): an association with energy storage. Canadian Journal of Fisheries and Aquatic Sciences, 54: 444-451.
558. 嶋田啓一・後藤浩一・山本一生・和田吉弘. 2006. 長良川における稚アユ遡上量の予測に関する検討. 日本水産学会誌, 72:665-672.
559. 反町 稔・佐古 浩. 1982. 降海性アマゴから分離された IPN ウィルス. 魚病研究, 17:115-118.
560. 須山三千三・平野敏行・岡田憲明・渋谷智晴. 1977. 天然および養殖アユの品質に関する化学的研究-I. 日本水産学会誌, 43:535-540.
561. 鈴木 清・木村清志. 1977. 長良川下流域におけるフナ属魚類の成長. 魚類学雑誌, 24: 199-206.
562. Suzuki, K., A. Kanamori, Y. Nagahama and H. Kawauchi. 1988. Development of salmon GTH I and GTH II radioimmunoassays. General and Comparative Endocrinology, 71: 459-467.
563. 鈴木美優・北西 滋・淀 太我・向井貴彦. 2016. 東海地方におけるヒガイ属魚類の遺伝的集団構造と攪乱. 魚類学雑誌, 63:107-118.
564. Suzuki, T., S. Kimura and K. Shibukawa. 2019. Two new lentic, dwarf species of *Rhinogobius gill*, 1859 (gobiidae) from Japan. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), 48: 21-36.
565. 鈴木寿之・向井貴彦・吉郷英範・大迫尚晴・鄭 達壽. 2010. トウヨシノボリ縞鱒型の再定義と新標準と名の提唱. 大阪市立自然科学博物館研究報告, 64:1-14.
566. 鈴木寿之・坂本勝一. 2005. 岐阜県と愛知県で採集されたトウカイヨシノボリ(新称). 日本生物地理学会会報, 60:13-20.

567. Tabata, R., R. Kakioka, K. Tominaga, T. Komiya and K. Watanabe. 2016. Phylogeny and historical demography of endemic fishes in Lake Biwa: the ancient lake as a promoter of evolution and diversification of freshwater fishes in western Japan. *Ecology and Evolution*, 6: 2601-2623.
568. Tabata, R. and K. Watanabe. 2013. Hidden mitochondrial DNA divergence in the Lake Biwa endemic goby *Gymnogobius isaza*: implications for its evolutionary history. *Environmental Biology of Fishes*, 96: 701-712.
569. 立川 互. 1964. 養鱒飼料試験(ニジマスの餌付飼料について). 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:36-41.
570. 立川 互. 1964. 養鱒飼料試験(市販配合飼料飼育試験). 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:42-43.
571. 立川 互. 1964. 養鱒飼料試験(飼料と魚体成分について). 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:44-45.
572. 立川 互. 1964. 養鱒飼料試験(市販配合飼料比較飼育). 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:46-48.
573. 立川 互. 1964. 養鱒飼料試験(オヒョウ精巢の飼料価値). 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:49-50.
574. 立川 互. 1964. ニジマスの冬囲い試験. 岐阜県水産試験場試験報告, 昭和 35,36,37 年度:51-53.
575. 立川 互. 1965. ニジマス市販配合飼料比較飼育試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:56-61.
576. 立川 互. 1965. ニジマス親魚養成飼料に関する試験(魚粉を主体とする飼料におけるビタミンとミネラルの添加量について). 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:62-69.
577. 立川 互. 1965. ニジマス市販飼料試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:70-73.
578. 立川 互. 1965. 高水温時におけるニジマスの給餌率について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:121-132.
579. 立川 互. 1965. ニジマス飼育の水量及び放養密度に関する試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:140-149.
580. 立川 互. 1967. ニジマス春稚魚の疾病について(外部寄生虫防除の影響). 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 40 年度:61-63.
581. 立川 互. 1967. ニジマス親魚改良試験 I(親魚餌料の適正蛋白質を求める試験並びに母体と卵質に関する検討). 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 40 年度:64-81.
582. 立川 互. 1967. ニジマス親魚改良試験 II(過熟過程に関する研究). 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 40 年度:82-88.
583. 立川 互. 1968. ニジマス春稚魚の疾病について I3 種類の水質に於ける発病経過. 岐阜県

- 水産試験場研究報告, 昭和 41 年度:49-55.
584. 立川 互. 1968. ニジマス春稚魚の疾病について II 経口感染試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 41 年度:56-60.
585. 立川 互. 1968. ニジマス卵の消毒に使用するグリーンの品位と毒性に関する試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 41 年度:75-78.
586. 立川 互. 1969. ニジマス稚魚の脾臓壊死症について I 感染試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 42 年度:63-68.
587. 立川 互. 1970. えら病に関する研究-III アマゴとヤマメ稚魚のエラ病に対する硫酸銅薬浴について. 岐阜県水産試験場研究報告, 15:91-93.
588. 立川 互・本荘鉄夫. 1968. 天然河川産アマゴの池中養成と採卵について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 41 年度:7-18.
589. 立川 互・本荘鉄夫・家坂剛正. 1965. ニジマス春稚魚の疾病について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 38,39 年度:100-113.
590. 立川 互・本荘鉄夫・岡崎 稔・森川 進・熊崎隆夫. 1971. 在来マス類の放流に関する研究-II 河川に放流した養殖アマゴの釣りによる短期回収について. 岐阜県水産試験場研究報告, 16:63-69.
591. 立川 互・本荘鉄夫・田口錠次・熊崎隆夫. 1969. アマゴの飼育について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和 42 年度:3-47.
592. 立川 互・細江重男・辻 利彦. 1975. “小谷”水系におけるニジマス養殖生産について. 岐阜県水産試験場研究報告, 20:27-38.
593. 立川 互・熊崎隆夫. 1970. アマゴの増殖に関する研究(第 11 報)アマゴのふ化水温について(2). 岐阜県水産試験場研究報告, 15:52-55.
594. 立川 互・熊崎隆夫. 1970. アマゴの増殖に関する研究(第 12 報)アマゴ稚魚の飼育水温について. 岐阜県水産試験場研究報告, 15:56-59.
595. 立川 互・熊崎隆夫. 1971. アマゴの増殖に関する研究(第 16 報)アマゴのふ化水温について(3). 岐阜県水産試験場研究報告, 16:35-42.
596. 立川 互・熊崎隆夫. 1976. アマゴの増殖に関する研究-XX アマゴ 0 年魚の体重組成に見られる成熟雄魚の特異な生長. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:41-49.
597. 立川 互・熊崎隆夫. 1981. アマゴの増殖に関する研究-XXI 体表の朱赤点の数とその大きさの遺伝性. 岐阜県水産試験場研究報告, 26:1-5.
598. 立川 互・熊崎隆夫・森川 進. 1971. アマゴの増殖に関する研究(第 15 報)アマゴ雄魚の成熟統御について. 岐阜県水産試験場研究報告, 16:16-34.
599. 立川 互・熊崎隆夫・上松和夫・原田賢之. 1974. アマゴの増殖に関する研究-XVIII アマゴ体表の朱赤点について(1)飼料への色素添加による着色効果. 岐阜県水産試験場研究報告, 19:19-26.
600. 立川 互・岡崎 稔・本荘鉄夫. 1973. 従来マス類の放流に関する研究-V 黒石谷におけるア

- マゴとニジマス 0 年魚の比較並びに放流時期について. 岐阜県水産試験場研究報告, 18: 17-24.
601. 立川 互・岡崎 稔・本荘鉄夫. 1973. 従来マス類の放流に関する研究-VI 秋期に放流したアマゴ 1 年魚, 銀毛型と河川型の定着性の相違について. 岐阜県水産試験場研究報告, 18: 25-29.
602. 立川 互・岡崎 稔・本荘鉄夫・原田増造・宇野将義. 1983. 在来マス類の放流に関する研究-XIX 伊勢湾周辺におけるスモルト型アマゴの放流効果. 岐阜県水産試験場研究報告, 28: 33-46.
603. 立川 互・岡崎 稔・森 美津雄. 1983. 蜂屋調整池において発見されたアユ稚魚の群れの起源について. 岐阜県水産試験場研究報告, 28:71-75.
604. 立川 互・田口錠次. 1980. 岐阜県におけるオオクチバス *Micropterus salmoides*(LACÉPÈDE) の分布の実態. 岐阜県水産試験場研究報告, 25:17-21.
605. 立川 互・田口錠次・熊崎隆夫. 1970. アマゴの増殖に関する研究(第 9 報)養殖アマゴの採卵ふ化について. 岐阜県水産試験場研究報告, 15:21-31.
606. 立川 互・田口錠次・熊崎隆夫. 1970. アマゴの増殖に関する研究(第 10 報)親魚飼料・親魚飼育水温並びに採卵期の調節について. 岐阜県水産試験場研究報告, 15:32-51.
607. 立川 互・臼田 博. 1981. アユ体型異常魚の出現事例とその原因に関する考察. 岐阜県水産試験場研究報告, 26:53-62.
608. 立川 互・渡部邦夫. 1973. アマゴの増殖に関する研究-XVII 電照による産卵時期の遅延について. 岐阜県水産試験場研究報告, 18:1-6.
609. 田口錠次・斉藤 薫. 1982. アジメドジョウの増殖に関する研究-VII 種苗の量産化について. 岐阜県水産試験場研究報告, 27:41-47.
610. 田口錠次・宇野康司・都竹仁一. 1972. ニシキゴイの品質改良に関する研究-I 紅白と大正三色の形付魚出現率について. 岐阜県水産試験場研究報告, 17:31-34.
611. 田口錠次・宇野康司. 1973. ニシキゴイの品質改良に関する研究-II 白写り緋写りの形付魚の出現について. 岐阜県水産試験場研究報告, 18:81-83.
612. 田口錠次・宇野康司・都竹仁一. 1975. ニシキゴイの品質改良に関する研究-IV プラチナの形付魚出現率について. 岐阜県水産試験場研究報告, 20:127-129.
613. 田口茂男. 1990. サツキマス. 淡水魚保護, 3:113-115.
614. 大塊子誌. 1894. やつめうなぎ. 動物学雑誌, 6:190-191.
615. Takada, M., K. Tachihara, T. Kon, G. Yamamoto, K. Iguchi, M. Miya and M. Nishida. 2010. Biogeography and evolution of the *Carassius auratus*-complex in East Asia. BMC Evolutionary Biology, 10: 1-18.
616. 高橋剛一郎・徳田幸憲・中村智幸. 2013. 人工産卵場における粒径組成とイワナの産着卵の生残について. 砂防学会誌, 66:40-44.
617. Takahashi, H., T. Kondou, N. Takeshita, T.-H. Hsu and M. Nishida. 2016. Evolutionary

- process of iwame, a markless form of the red-spotted masu salmon *Oncorhynchus masou ishikawae*, in the Ôno River, Kyushu. Ichthyological Research, 63: 132-144.
618. 高久宏佑・細谷和海. 2008. 絶滅危惧種カワバタモロコの人工繁殖. 水産増殖, 56:13-18.
619. Takasaki, N., S. Murata, M. Saitoh, T. Kobayashi, L. Parks and N. Okada. 1994. Species-specific amplification of tRNA-derived short interspersed repetitive elements (SINEs) by retroposition: a process of parasitization of entire genomes during the evolution of salmonids. PNAS, 91: 10153-10157.
620. Takehana, Y., N. Nagai, M. Matsuda, K. Tsuchiya and M. Sakaizumi. 2003. Geographic variation and diversity of the cytochrome b gene in Japanese wild populations of medaka, *Oryzias latipes*. Zoological Science, 20: 1279-1291.
621. 武内啓明・朝井俊亘・内山りゅう・細谷和海. 2011. 近畿大学農学部所蔵の内山りゅう魚類標本コレクション. 近畿大学農学部紀要, 44:63-87.
622. 竹内昌昭・石井清之助・小木曾卓郎. 1981. 飼料のビタミン E 量がアユのビタミン E 蓄積産卵および卵質におよぼす影響. 東海区水産研究所研究報告, 104:111-122.
623. 田丸理恵・古屋康則. 2016. 1 授業時間でのメダカの産卵観察法の開発:20 分以内に産卵を観察するには. 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 40:57-63.
624. 田中茂穂. 1909. 岐阜産魚類豫報. 動物学雑誌, 21:62-67.
625. 田中茂穂. 1910. 魚類報告(第 25 回). 動物学雑誌, 22:268-269.
626. 田中茂穂. 1912. イトウの巣. 動物学雑誌, 24:37.
627. 谷口倫太郎・進東健太郎・峯 和也・佐藤萌柚・北島淳也. 2020. ウシモツゴビオトープに放流されたオオクチバス. ボテジャコ, 24:53-61.
628. 田代文男・荒井 真. 1975. マス類の水生菌症に関する研究-I 水生菌症の誘発事例について. 岐阜県水産試験場研究報告, 20:99-103.
629. 田代文男・熊崎隆夫. 1974. アマゴに発生した白内障について. 岐阜県水産試験場研究報告, 19:77-81.
630. 田代文男・森川 進. 1973. IPN(伝染性脾臓壊死症)に関する研究-I 岐阜県内の発病状況と病原体の分離について. 岐阜県水産試験場研究報告, 18:39-43.
631. 田代文男・森川 進・荒井 真. 1977. サケ科魚類稚魚の内臓性真菌症に関する研究-I 発病例と病魚の肉眼所見. 岐阜県水産試験場研究報告, 22:139-140.
632. 田代文男・森川 進・荒井 真. 1977. サケ科魚類稚魚に発生した新しいカビ病. 魚病研究, 11:213-215.
633. 田代文男・森川 進・本西 晃・三城 勇・木村紀彦・井上 潔・野村哲一・牛山宗弘・城 泰彦・林 不二雄・国峰一声. 1979. ピロミド酸に関する魚病化学療法的研究-II. 魚病研究, 14: 93-101.
634. 田代文男・高橋 誠・天野 賢. 1983. アマゴの増殖に関する研究-XXI アマゴのスモルト化に及ぼす成長の影響について. 岐阜県水産試験場研究報告, 28:1-8.

635. 田代文男・高橋 誠・天野 賢. 1983. アマゴの増殖に関する研究-XXII スモルト型アマゴの出現率が異なる 2 つの系統について. 岐阜県水産試験場研究報告, 28:9-16.
636. 田代 喬・奥田千賀子・辻本哲郎. 2014. 底生魚の生息場所からみたダム下流の河床のアーマー化と土砂還元による機能の回復. 土木学会論文集, 70:1321-1326.
637. 手賀太郎・野口大毅・佐野聡哉・田中秀具・桑田知宣・水戸 鼓・中嶋正道・谷口順彦. 2012. サツキマス(アマゴ)およびビワマスの遺伝的多様性評価および遺伝的類縁関係. 水産育種, 41:51-61.
638. 徳原哲也・藤井亮吏・苅谷哲治・桑田知宣. 2007. 長良川におけるアマゴ在来個体群の分布状況. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 52:23-26.
639. 徳原哲也・原 徹. 2002. 岐阜県における希少魚ネコギギの分布. 魚類学雑誌, 49:121-126.
640. 徳原哲也・苅谷哲治・原 徹・熊崎隆夫・岸 大弼. 2009. 成魚放流されたアマゴにおけるスモルトとパーの残留性の違い. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 54:7-9.
641. 徳原哲也・加島隆洋・苅谷哲治. 2012. 摂餌活性から見たアマゴのスモルトとパーの違い. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 57:23-27.
642. 徳原哲也・岸 大弼. 2014. 人工産卵場におけるアマゴ雌親魚 1 尾あたりの産卵量. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 59:1-3.
643. 徳原哲也・岸 大弼・原 徹・熊崎 博. 2010. 河川放流した養殖アマゴ成熟親魚の産卵床立地条件と卵の発眼率. 日本水産学会誌, 76:370-374.
644. 徳原哲也・桑田知宣. 2005. アマゴの育種に関する研究-IX 早熟雄とスモルト雄が次世代の相分化に与える影響について. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 50:7-11.
645. 徳原哲也・桑田知宣・藤井亮吏・原 徹・苅谷哲治・岸 大弼. 2016. 長良川におけるサツキマスの遡上動態. 魚類学雑誌, 63:5-10.
646. 徳原哲也・桑田知宣・苅谷哲治・藤井亮吏・原 徹・熊崎隆夫・岸 大弼. 2009. アマゴの成魚放流における放流日およびスモルト・パーの違いが釣獲効率に与える影響. 水産増殖, 57:423-428.
647. 徳原哲也・桑田知宣・苅谷哲治・藤井亮吏・原 徹・熊崎隆夫・岸 大弼. 2011. 釣獲実態, 放流経費および遊漁者の意識からみたヤマメ・アマゴの成魚放流の有効性. 水産増殖, 59:241-245.
648. 徳原哲也・佐藤正人・大原健一・辻 寛人・岸 大弼. 2019. 人工産卵場におけるヤマメおよびアマゴ卵の発眼率. 水産技術, 11:91-96.
649. 徳原哲也・辻 寛人・大原健一・岸 大弼. 2017. 河川におけるアマゴ養殖雌親魚と先住の雄親魚による自発産卵およびその卵の発眼率. 岐阜県水産研究所研究報告, 62:15-17.
650. 徳原(一柳)哲也・桑田知宣. 2002. アマゴの育種に関する研究-VIII12代スモルト選抜を行った魚の生物学的特性. 岐阜県淡水魚研究所研究報告, 47:1-4.
651. Tominaga, K. and S. Kawase. 2019. Two new species of *Pseudogobio* pike gudgeon (Cypriniformes: Cyprinidae: Gobioninae) from Japan, and redescription of *P. esocinus*

- (Temminck and Schlegel 1846). Ichthyological Research, 66: 488–508.
652. Tominaga, K., J. Nakajima and K. Watanabe. 2016. Cryptic divergence and phylogeography of the pike gudgeon *Pseudogobio esocinus* (Teleostei: Cyprinidae): a comprehensive case of freshwater phylogeography in Japan. Ichthyological Research, 63: 79–93.
653. Tominaga, K., K. Watanabe, R. Kakioka, S. Mori and S.-R. Jeon. 2009. Two highly divergent mitochondrial DNA lineages within *Pseudogobio esocinus* populations in central Honshu, Japan. Ichthyological Research, 56: 195–199.
654. Tsukamoto, K. 1985. Mass-marking of ayu eggs and larvae by tetracycline-tagging of otoliths. Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries, 51: 903–911.
655. Tsukamoto, K. 1988. Otolith tagging of ayu embryo with fluorescent substances. Nippon Suisan Gakkaishi, 54: 1289–1295.
656. 塚本勝巳. 1991. 長良川・木曾川・利根川を流下する仔アユの日齢. 日本水産学会誌, 58: 1523–1527.
657. Tsukamoto, K. and T. Kajihara. 1987. Age determination of ayu with otolith. Nippon Suisan Gakkaishi, 53: 1985–1997.
658. 都竹仁一・桑田知宣・岡崎 稔・一柳哲也・臼田 博. 2000. 全雌異質三倍体ニジアマに見られる2つのタイプについて. 岐阜県水産試験場研究報告, 45:13–21.
659. Uchida, K., K. Tsukamoto, R. Ishida, S. Ishii and T. Kajihara. 1990. Effect of parental origin on jumping and spacing behaviours of juvenile ayu *Plecoglossus altivelis* with special reference to their upstream migration. Nippon Suisan Gakkaishi, 56: 1401–1405.
660. Uchida, K., K. Tsukamoto, S. Ishii, R. Ishida and T. Kajihara. 1989. Larval competition for food between wild and hatchery-reared ayu, *Plecoglossm altivelis* Temminck et Schlegel, in culture ponds. Journal of Fish Biology, 34: 399–407.
661. 内山 隆. 1984. 岐阜県に於けるウシモツゴの生息地とその現状. 淡水魚, 10:100.
662. 内山 隆. 1987. ウシモツゴ *Pseudorasbora pumila* subsp.の形態と生態. 淡水魚, 13:74–84.
663. Ueda, H., A. Kambegawa and Y. Nagahama. 1985. Involvement of gonadotrophin and steroid hormones in spermiation in the amago salmon, *Oncorhynchus rhodurus*, and goldfish, *Carassius auratus*. General and Comparative Endocrinology, 59: 24–30.
664. Ueda, H., Y. Nagahama, F. Tashiro and L. W. Crim. 1983. Some endocrine aspects of precocious sexual maturation in the amago salmon *Oncorhynchus rhodurus*. Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries, 49: 587–596.
665. Ueda, H., G. Young, L.W. Crim, A. Kambegawa and Y. Nagahamaa. 1983. 17α , 20β -Dihydroxy-4-pregnen-3-one: Plasma levels during sexual maturation and in vitro production by the testes of amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*) and rainbow trout (*Salmo gairdneri*). General and Comparative Endocrinology, 51: 106–112.
666. 上原伸一. 1996. 伊勢湾沿岸地域におけるヨシノボリ属 6 種の分布. 魚類学雑誌, 43:89–99.

667. 上野紘一・岩井修一・小島吉雄. 1980. シマドジョウ属にみられた染色体多型と倍数性, ならびにそれらの染色体型の地理的分布. 日本水産學會誌, 46:9-18.
668. Ueno, K. and Y. Ojima. 1976. Diploid tetraploid complexes in the genus *Cobitis* (Cobitidae, Cyprinida). Proceedings of the Japan Academy, 52: 446-449.
669. 梅村啓太郎・二村 凌・高木雅紀・池谷幸樹・向井貴彦. 2012. 岐阜県産シロヒレタビラにおける外来ミトコンドリア DNA. 日本生物地理学会会報, 67:169-174.
670. 宇野康司・船坂義郎. 1969. アユ稚魚の飼育について. 岐阜県水産試験場研究報告, 昭和42年度:1-2.
671. 宇野康司・熊崎隆夫. 1970. アユの親魚養成飼料並びに成熟統御に関する研究-V 定時式及び二段式光処理方法の比較について. 岐阜県水産試験場研究報告, 15:60-66.
672. 宇佐美鍵一. 1914. 長良川鮎ニ於ケル横川氏新吸蟲「メタゴニムス」ニ就テ(第一報告). 日本消化機病学会雑誌, 13:245-278.
673. 臼田 博. 1981. 人工採苗アユの放流効果に関する研究-X 人工採苗アユの放流効果と問題点について. 岐阜県水産試験場研究報告, 26:27-38.
674. 臼田 博. 1986. 染色体操作における有用魚種の品質改善研究-温度処理による3倍体アマゴの作出と飼育. 岐阜県水産試験場研究報告, 31:15-19.
675. 臼田 博. 1988. 染色体操作による有用魚種の品質改善研究-II 温度処理によるニジマスの同質及びアマゴ雄魚との異質三倍体の作出と飼育. 岐阜県水産試験場研究報告, 33:21-27.
676. 臼田 博. 1988. 飼育用水の紫外線照射による生残率の向上について. 岐阜県水産試験場研究報告, 33:55-61.
677. 臼田 博・本荘鉄夫. 1976. 在来マス類の放流に関する研究-X 伊勢湾で採捕された標識放流アマゴといわゆる本マスの鱗の大きさと隆起線数の比較. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:9-14.
678. 臼田 博・本荘鉄夫. 1976. 在来マス類の放流に関する研究-XI 伊勢湾で採捕された標識放流アマゴといわゆる本マスの鱗相比較. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:15-19.
679. 臼田 博・本荘鉄夫. 1978. 在来マス類の放流に関する研究-XIII 長良川下流域で採捕した標識放流アマゴと遡河マスの鱗相. 岐阜県水産試験場研究報告, 23:7-11.
680. 臼田 博・熊崎隆夫. 1991. 染色体操作による有用魚種の品質改善研究-III 晩期産卵系ニジマスの温度処理による三倍体作出について. 岐阜県水産試験場研究報告, 36:7-11.
681. 臼田 博・村瀬恒夫. 1978. 人工採苗アユ(*Plecoglossus altivelis*)の放流効果に関する研究-VII 大型人工種苗の放流試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 23:13-20.
682. 臼田 博・小木曾卓郎. 1976. 人工採苗アユの放流効果に関する研究-IV 河川放流後採捕された人工採苗アユの低肥満度について. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:21-26.
683. 臼田 博・小木曾卓郎. 1976. アユ親魚の飼育に関する研究-III クロレラ飼料によるアユの飼育と卵質改善および系統の特性について. 岐阜県水産試験場研究報告, 21:71-80.
684. 臼田 博・小木曾卓郎. 1977. 人工採苗アユ(*Plecoglossus altivelis*)の放流効果に関する研究

- V 門和佐川における放流試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 22:105-113.
685. 臼田 博・田口錠次. 1979. 人工採苗アユ (*Plecoglossus altivelis*) の放流効果に関する研究-VIII 大形群と小型群の放流比較試験. 岐阜県水産試験場研究報告, 24:9-18.
686. 臼田 博・田口錠次・立川 互. 1980. 人工採苗アユ (*Plecoglossus altivelis*) の放流効果に関する研究-IX 琵琶湖産系人工種苗の放流効果. 岐阜県水産試験場研究報告, 25:1-9.
687. 和田 清・藤井貴洋・小出水規行・寺町 茂. 2010. マイクロサテライト DNA を用いた長良川中流域におけるホトケドジョウ集団の遺伝的構造特性. 第 38 回環境システム研究論文発表会講演集, :37-42.
688. 和田 清・小出水規行・藤井貴洋・寺町 茂. 2009. マイクロサテライト DNA を用いた損斐川流域の農業用水におけるドジョウ個体群の遺伝的特性. 第 37 回環境システム研究論文発表会講演集, :317-321.
689. 和田吉弘. 1968. 矢作川におけるアユの成長と環境の関係. 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 4:113-120.
690. 和田吉弘. 1981. アユの遊泳活動の日周変化について. 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 6:698-704.
691. 和田吉弘. 1981. 長良川の千本松原付近における降下仔アユの垂直分布について. 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学), 6:705-712.
692. 和田吉弘・稲葉左馬吉・石原鍬岐夫. 1961. アユの棲息密度と成長との関係. 岐阜大学学芸学部研究報告(自然科学), 2:486-492.
693. 和田吉弘・土田 剛. 1961. 濁りとアユの呼吸について. 岐阜大学学芸学部研究報告(自然科学), 2:493-497.
694. 渡辺勝敏. 1991. ネコギギ生息地の保全対策-岐阜県川浦川における護岸災害復旧工事の際して. 淡水魚保護, 4:87-90.
695. 渡辺勝敏. 1992. 清流のシンボルフィッシュとしてのネコギギ. 淡水魚保護, 5:14-17.
696. Watanabe, K. 1994. A note on the reproductive ecology of the torrent catfish, *Liobagrus reinii* (Siluriformes: Amblycipitidae). Japanese Journal of Ichthyology, 41: 219-221.
697. Watanabe, K. 1994. Mating behavior and larval development of *Pseudobagrus ichikawai* (Siluriformes: Bagridae). Japanese Journal of Ichthyology, 41: 243-251.
698. 渡辺勝敏. 2007. 美濃加茂市における天然記念物ネコギギの生態研究と保全. 美濃加茂市民ミュージアム紀要, 6:2-8.
699. Watanabe, K. 2009. Sudden crash of a local population of the endangered bagrid catfish *Pseudobagrus ichikawai*. Ichthyological Research, 56: 319-321.
700. 渡辺勝敏・伊藤慎一郎. 1999. 川浦川における希少種ネコギギの生息個体数と分布. 魚類学雑誌, 46:15-30.
701. Watanabe, K., S. Kawase, T. Mukai, R. Kakioka, J. Miyazaki and K. Hosoya. 2010. Population divergence of *Biwia zezera* (Cyprinidae: Gobioninae) and the discovery of a cryptic species,

- based on mitochondrial and nuclear DNA sequence analyses. *Zoological Science*, 27: 647–655.
702. Watanabe, K. and S. Mori. 2008. Comparison of genetic population structure between two cyprinids, *Hemigrammocyppris rasborella* and *Pseudorasbora pumila* subsp., in the Ise Bay basin, central Honshu, Japan. *Ichthyological Research*, 55: 309–320.
703. Watanabe, K., S. Mori and M. Nishida. 2003. Genetic relationships and origin of two geographic groups of the freshwater threespine stickleback, 'Hariyo'. *Zoological Science*, 20: 265–274.
704. Watanabe, K., S. Mori, T. Tanaka, N. Kanagawa, T. Itai, J. Kitamura, N. Suzuki, K. Tominaga, R. Kakioka, R. Tabata, T. Abe, Y. Tashiro, Y. Hashimoto, J. Nakajima and N. Onikura. 2014. Genetic population structure of *Hemigrammocyppris rasborella* (Cyprinidae) inferred from mtDNA sequences. *Ichthyological Research*, 61: 352–360.
705. Watanabe, K. and M. Nishida. 2003. Genetic population structure of Japanese bagrid catfishes. *Ichthyological Research*, 50: 140–148.
706. Watanabe, K., H. Sakai, T. Sanada and M. Nishida. 2018. Comparative phylogeography of diadromous and freshwater daces of the genus *Tribolodon* (Cyprinidae). *Ichthyological Research*, 65: 383–397.
707. Watanabe, N., T. Nakamura, E. Watanabe, E. Sato and Y. Ose. 1984. Distribution of organosiloxanes (silicones) in water, sediments and fish from the Nagara River watershed, Japan. *Science of the Total Environment*, 35: 91–97.
708. Yamaguchi, A. and Y. Nagahama. 2001. Somatic lamins in germinal vesicles of goldfish (*Carassius auratus*) vitellogenic oocytes. *Cell Structure and Function*, 26: 693–703.
709. Yamamoto, S., K. Morita, T. Kikko, K. Kawamura, S. Sato and J.-C. Gwo. 2020. Phylogeography of a salmonid fish, masu salmon *Oncorhynchus masou* subspecies-complex, with disjunct distributions across the temperate northern Pacific. *Freshwater Biology*, 65: 698–715.
710. 山中すみへ・上田喜一. 1974. 魚類における水銀の動向について (Hg Series No.15). *日本衛生学雑誌*, 28:574–581.
711. Yamasaki, Y. Y., M. Nishida, T. Suzuki, T. Mukai and K. Watanabe. 2015. Phylogeny, hybridization, and life history evolution of *Rhinogobius* gobies in Japan, inferred from multiple nuclear gene sequences. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 90: 20–33.
712. Yamazaki, Y. and A. Goto. 1996. Genetic differentiation of *Lethenteron reissneri* populations, with reference to the existence of discrete taxonomic entities. *Ichthyological Research*, 43: 283–299.
713. Yamazaki, Y. and A. Goto. 1997. Morphometric and meristic characteristics of two groups of *Lethenteron reissneri*. *Ichthyological Research*, 44: 12–25.
714. Yamazaki, Y., A. Goto, H. K. Byeon and S. R. Jeon. 1999. Geographical distribution patterns

- of the two genetically divergent forms of *Lethenteron reissneri* (Pisces: Petromyzontidae). Biogeography, 1: 49–56.
715. Yamazaki, Y., A. Goto and M. Nishida. 2003. Mitochondrial DNA sequence divergence between two cryptic species of *Lethenteron*, with reference to an improved identification technique. Journal of Fish Biology, 62: 591–609.
716. Yamazaki, Y., K. Ikeya, K. Goto and Y. Chimura. 2017. Population viability analysis predicts decreasing genetic diversity in ex situ populations of the Itasenpara bitterling *Acheilognathus longipinnis* from the Kiso River, Japan. Ichthyological Research, 64: 54–63.
717. Yamazaki, Y., N. Shimada and Y. Tago. 2005. Detection of hybrids between masu salmon *Oncorhynchus masou masou* and amago salmon *O. m. ishikawae* occurred in the Jinzu River using a random amplified polymorphic DNA technique. Fisheries Science, 71: 320–326.
718. Yamazaki, Y., K. Uehara, K. Ikeya and M. Nishio. 2020. Interpopulational and intrapopulational genetic diversity of the endangered Itasenpara bitterling (*Acheilognathus longipinnis*) with reference to its demographic history. Conservation Genetics, 21: 55–64.
719. 山澤広之・桑田知宣・山澤和子・寺嶋昌代・野澤義則. 2014. 放流アユの脂肪酸組成の変動からみた放流適期. 日本食品科学工学, 61:139–143.
720. Yokoi, K., T. Kuwada, K. Yamane, Y. Nishiguchi, S. Yamamoto, M. Gouda, K. Takii and H. Ohta. 2009. Hormone injections enhance the tolerance of land-locked ayu spermatozoa to cryopreservation. Aquaculture Research, 40: 1839–1898.
721. Yokoyama, H., T. Kageyama, K. Ohara and T. Yanagida. 2007. *Myxobolus nagaraensis* n. sp. (Myxozoa: Myxosporidia) causes abdominal distension of freshwater goby *Rhinogobius* sp. OR type from the Nagara River. Fisheries Science, 73: 633–639.
722. 米田彬史・板倉 光・荒井考磨・海部健三・吉永龍起・三宅陽一・白井厚太郎・木村伸吾. 2019. 耳石安定同位体比分析と文献調査に基づく日本におけるニホンウナギの自然分布域. 日本水産学会誌, 85:150–161.
723. 米倉竜次. 2008. 侵略的外来種ブルーギルの有効的な駆除管理に向けた科学的検討. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 53:7–12.
724. 米倉竜次. 2010. 外来魚ブルーギルの捕食量抑制に与える人工音響の効果順応と集団比較. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 55:17–22.
725. 米倉竜次. 2018. 岐阜県の農業排水路における優占魚種地理的分布. 岐阜県水産研究所研究報告, 63:17–23.
726. 米倉竜次・苅谷哲治・藤井亮吏・熊崎 博・斉藤 薫・熊崎隆夫・桑田知宣・原 徹・徳原哲也・景山哲史. 2007. 釣りによるブルーギル個体群の抑制. 日本水産学会誌, 73:839–843.
727. 米倉竜次・松田宏典. 2013. 水田におけるナマズ稚魚の生残. 岐阜県河川環境研究所研究報告, 58:14–19.
728. Yoshida, K., M. Ravinet, T. Makino, A. Toyoda, T. Kokita, S. Mori and J. Kitano. 2020.

- Accumulation of deleterious mutations in landlocked threespine stickleback populations. *Genome Biology and Evolution*, 12: 479-492.
729. 吉田俊朗. 1979. 木曾三川(長良川, 揖斐川, 木曾川)における天然遡上アユの漁獲調査について. 岐阜県水産試験場研究報告, 24:55-58.
730. Yoshimizu, M. and T. Kimura. 1985. A coagglutination test with antibody-sensitized staphylococci for rapid and simple diagnosis of bacterial and viral diseases of fish. *Fish Pathology*, 20: 243-261.
731. 吉水 守・野村哲一・栗倉輝彦・木村喬久. 1988. 北日本におけるサケ科魚類採卵親魚の魚類ウイルス保有状況について—昭和 51 年～昭和 61 年—. 北海道さけ・ますふ化場研究報告, 42:1-20.
732. Yoshiyasu, K. 1973. Starch-gel electrophoresis of hemoglobins of freshwater salmonid fishes in southwest japan-II. Genus *Oncorhynchus* (salmon). *Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries*, 39: 97-114.
733. Yoshiyasu, K. 1979. Starch-gel electrophoresis of hemoglobins of freshwater salmonid fishes in southwest Japan. III. "Ayu" *Plecoglossus altivelis*, a fish closely related to Salmonidae. *Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries*, 45: 401-406.
734. Yoshiyasu, K. and Y. Humoto. 1972. Starch-gel electrophoresis of hemoglobins of freshwater salmonid fishes in southwest Japan-I. Genus *Salvelinus* (char). *Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries*, 38: 779-788.
735. Young, G., L. W. Crim, H. Kagawa, A. Kambegawa and Y. Nagahama. 1983. Plasma $17\alpha, 20\beta$ -dihydroxy-4-pregnen-3-one levels during sexual maturation of amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*): Correlation with plasma gonadotropin and in vitro production by ovarian follicles. *General and Comparative Endocrinology*, 51: 96-105.
736. Young, G., H. Kagawa and Y. Nagahama. 1982. Oocyte maturation in the amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*): In vitro effects of salmon gonadotropin, steroids, and cyanoketone (an inhibitor of 3β -hydroxy- Δ^5 -steroid dehydrogenase). *Journal of Experimental Zoology*, 224: 265-275.
737. Young, G., H. Kagawa and Y. Nagahama. 1982. Secretion of aromatizable δ^4 androgens by thecal layers during estradiol- 17β production by ovarian follicles of amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*) in vitro. *Biomedical Research*, 3: 659-667.
738. Young, G., H. Kagawa and Y. Nagahama. 1982. Inhibitory effect of cyanoketone on salmon gonadotropin-induced estradiol- 17β production by ovarian follicles of the amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*) in vitro. *General and Comparative Endocrinology*, 47: 357-360.
739. Young, G., H. Kagawa and Y. Nagahama. 1983. Evidence for a decrease in aromatase activity in the ovarian granulosa cells of amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*) associated with final oocyte maturation. *Biology of Reproduction*, 29: 310-315.

740. Young, G., H. Ueda and Y. Nagahama. 1983. Estradiol- 17β and 17α , 20β -dihydroxy-4-pregnen-3-one production by isolated ovarian follicles of amago salmon (*Oncorhynchus rhodurus*) in response to mammalian pituitary and placental hormones and salmon gonadotropin. General and Comparative Endocrinology, 52: 329-335.
741. Zhang, X. and H. Onozato. 2004. Allo-eudiploidy of the diploid cells in diploid-tetraploid mosaic hybrids between female rainbow trout *Oncorhynchus mykiss* and male amago salmon *O. rhodurus*. Fisheries Science, 70: 924-926.

初期版 2021.02.21

編集 伊藤 玄・古屋康則（岐阜大学教育学部）